

# 永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2018年 4月

「恐れるな、小さい群れよ」「人の墮落(1)」「真の礼拝」「じゃがいも団子」

# 永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

## 目次

### 今月の聖書勉強

#### 人の墮落 (I)

4

聖書の教え

### 朝のマナ

#### 恐れるな、小さい群れよ

7

*Fear Not, Little Flock*

### 現代の真理

#### 「真の礼拝」

38

清めの特別な働き

### 力を得るための食事

#### じゃがいも団子

44

### お話コーナー

#### 「良い羊飼いの(Ⅲ)」

46

イエスの物語

#### 教会

##### 【正丸教会】

〒 368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話 : 0494-22-0465

FAX : 0494-40-1045

##### 【高知集会所】

〒 780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話 : 088-831-9535

##### 【沖縄集会所】

〒 905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話 : 0980-55-8136

アクセス [www.4angels.jp](http://www.4angels.jp)

メール [support@4angels.jp](mailto:support@4angels.jp)

発行日 2018 年 3 月 4 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒 368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty Images on Front page, Dreamtimes  
on Back page

Printed in Japan

## 七つの金の燭台の間を歩くお方

イエスはご自分に従う者たちについて、次のように祈られた。「父よ、あなたがわたしに賜わった人々が、わたしのいる所に一緒にいるようにして下さい。天地が造られる前からわたしを愛して下さい、わたしに賜わった栄光を、彼らに見させて下さい」。ああ、なんとという要求であろう！なんとやさしく言い尽くし得ない愛がこの嘆願の中に含まれていることであろう！わたしたちの生けるかしらはご自分の体の肢体がご自分と共に交わることを切望しておられる。……このお方は彼らのご自分の栄光において共にいるのでなければ満足なさらないのである。……ヨハネはパトモス島の幻の中でキリストの威光について書いている、「そこでわたしは、わたしに呼びかけたその声を見ようとしてふりむいた。ふりむくと、七つの金の燭台が目についた。それらの燭台の間に、足までたれた上着を着、胸に金の帯をしめている人の子のような者がいた。そのかしらと髪の毛とは、雪のように白い羊毛に似て真白であり、目は燃える炎のようであった。その足は、炉で精錬されて光り輝くしんちゅうのようであり、声は大水のとどろきのようであった。その右手に七つの星を持ち、口からは、鋭いもろ刃のつるぎがつき出ており、顔は、強く照り輝く太陽のようであった。わたしは彼を見たとき、その足もとに倒れて死人のようになった。すると、彼は右手をわたしの上において言った、「恐れるな。わたしは初めであり、終りであり、また、生きている者である。わたしは死んだことはあるが、見よ、世々限りなく生きている者である。そして、死と黄泉とのかぎを持っている」。(レビュー・アンド・ヘルド 1893.8.15)

「七つの金の燭台の間を歩く者が、次のように言われる」(黙示録 2:1)。この聖句は、諸教会に対するキリストの関係を示している。このお方は地を縦横無尽にご自分の諸教会の真ん中を歩いておられる。このお方は彼らのご自分の御国を前進させられる霊的な状態にあるかどうかをご覧になるために、非常な関心をもって見ておられる。キリストは教会のすべての集会に出席しておられる。このお方はご自分の奉仕に関わっているすべての人をよくご存じである。このお方は、他の人々に分け与えることができるようにだれの心に聖油を満たすことができるかをご存じである。言葉とわざにおいて神のご品性を表し、自分たちのための主のご目的を果たすことによって、わたしたちの世でキリストの働きを忠実に前進させる人々は、このお方の御目に非常に尊い。キリストは、人が良く手入れされた園と自分の植えた花々の香りを喜ぶように、彼らを喜ばれる。(驚くべき神の恵み 95)

## 第4課 人の墮落 (I)

### 誘惑に屈する

わたしたちの周囲にある非常に多くのあふれる良いことの証拠があるときに、苦しみ、悲しみ、惨めさ、戦争、死などを見ることは矛盾しているように思えます。しかし、悪意や憎しみは当たり前だと思われています。ある人々はこれらのことは自然に存在するものと結論づけます。ほかの人々は、地上に悪が存在することについて、「もし神が愛であり、もし正しい方であるなら、なぜこれらの事柄が存在することを許すのか」と言って、神を責めます。悲しいことに、このような論法が懐疑者や無神論者を生み、全能なる創造主に反対して語るのです。

第三課で与えられた証拠は、神がこの世界とそこにあるすべてのものを創造されたことを示しています。しかし、このお方は世界を今のように創造されたのでしょうか。人が苦しむことがこのお方のご計画だったのでしょうか。これらすべてのことが存在することがこのお方のご目的でしょうか。それらはいつ、どのように生じたのでしょうか。わたしたちはこの課でこれらの歴史のある部分を述べていきます。

### エデンにおける人の状態

パラダイスにおける彼らの幸せな家庭で、聖なる夫婦は自分たちが神聖で喜びに満ちた環境にいることを見出しました。彼らは創造主のご臨在を楽しみ、このお方と顔と顔を合わせて語ることができました。アダムとエバの家は、神ご自身が植えられた色とりどりのもつとも美しい花々に飾られていました。雲のない空が彼らの屋根でした。さまざまな木々の葉、あらゆる緑の草や植物が、地上の最初の夫婦の幸福に寄与していました。四つの水晶のような川が園を横断して流れていました。多種多様な果樹がパラダイスを美しくし、豊かなみずみずしい果実をみのらせていました。園の中央には、二本の特別な木が育っていました。一つは、「命の木」であり、命を長らえさせるもの、そしてもう一方は「善悪を知る木」でした。

当然、神はアダムとエバの食事を計画しておられました。それは「はなはだ良」く、自然の豊富な産物からなっていました。

「主なる神は人を連れて行ってエデンの園に置き、これを耕させ、これを守ら

せられた。主なる神はその人に命じて言われた、「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい」（創世記 2:15, 16）。

「神はまた言われた、『わたしは全地のおもてにある種をもつすべての草と、種のある実を結ぶすべての木とをあなたがたに与える。これはあなたがたの食物となるであろう。』（創世記 1:29）。

アダムは地、植物、鉱物、そしてあらゆる生きた被造物を治める統治権を神から受けました。創造後、彼はすべての動物に名前を付けました。

「そして主なる神は野のすべての獣と、空のすべての鳥とを土で造り、人のところへ連れてきて、彼がそれにどんな名をつけるかを見られた。人がすべて生き物に与える名は、その名となるのであった。それで人は、すべての家畜と、空の鳥と、野のすべての獣とに名をつけたが、人にはふさわしい助け手が見つからなかった」（創世記 2:19, 20）。

野獣の危険や恐れはありませんでした。ライオンは子羊と共に穏やかに歩き、人の足元に伏しました。鳥は彼らの方に何の恐れもなくとまり、その素晴らしい旋律を鳴らし、さえずりました。不幸の影はパラダイスに存在しませんでした。天の使はアダムとエバを訪問するために下ってきて、彼らに神の愛といつくしみ深さを教えました。一枚一枚の葉に、一つ一つの花や石に、ご自分の被造物のための神の永遠の保護が見られました。

## 神のご命令—忠誠

天の使がエデンの園の住民を訪れたとき、彼らは罪の起源について、また一人の天使がどのように神とその律法に対して反逆を起こしたかを説明しました。彼らは誘惑者に耳を傾けることがないように警告し、アダムとエバに疑うことなく神のご命令に従うよう訓告しました。彼らには自分たちへの神の愛について、あふれるほどの証拠がありました。しかし、神は彼らに一つの制限をおくことによって、彼らを試すことを望まれました。「しかし善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きっと死ぬであろう」（創世記 2:17）。

この「善悪を知る木」は触れるべきではありませんでした。人が悪を知ることは神のみことではありませんでした。神は彼らにあらゆる良いものをお備えにしましたが、愛のうちに、悪の知識はいつさい差し控えておられました。アダムとエバには猶予期間が与えられました。知識の木は、自分の創造主への従順と愛を試す単純なテストとして差し控えられたのです。彼らは神への忠誠という条件のもとにのみ不死を維持することができました。彼らは誘惑者とそのほめかしを拒絶するよう勧告されました。そのとき、彼らは安全であり、危険がないのでした。サタンは知識の木へ近づくときにのみ彼らを誘惑することができました。もし彼らが神聖なご命令に従順でないならば、彼らは神への忠誠を放棄することになり、

サタンの臣下となって自分たちのパラダイスの家庭を失うのです。

## 罪の下に売られる

エバは忙しく園で働いているあいだに、気づかないうちに自分の夫から離れてしまっていました。彼女は自分が一人であることに気がつきましたが、何の危険も感じませんでした。

彼女は「善悪を知る木」に近づくと、枝になっている魅力的な果実を眺めて、天使の警告を忘れました。彼女は「なぜ神様はこの木から取って食べてはならないとわたしたちに禁じられたのかしら」と自問しました。禁じられた木の近くに残っていると、へびという媒介を通して、誘惑者は自分の機会を得ました。

「さて主なる神が造られた野の生き物のうちで、へびが最も狡猾であった。へびは女に言った、『園にあるどの木からも取って食べるなと、ほんとうに神が言われたのですか』。女はへびに言った、『わたしたちは園の木の実を食べることは許されていますが、ただ園の中央にある木の実については、これを取って食べるな、これに触れるな、死んではいけないからと、神は言われました』。へびは女に言った、『あなたがたは決して死ぬことはないでしょう。』（創世記 3:1-4）。

なんと驚くべきことでしょう。へびが話しています！どこからこの言葉という賜物を得たのでしょうか。木から走り去る代わりに、彼女は好奇心からへびとの会話に引き込まれていきました。へびは彼女にへつらって言いました、「それを食べると、あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知っておられるのです」（創世記 3:5）。

これは、神のご命令は単に彼らをおどかすためのものであり、本気で言われたのではないということをほのめかしていました。さらに、彼は自分がこの実を食べたので、言葉という賜物と同様、知識も得たのだと断言しました。

「女がその木を見ると、それは食べるに良く、目には美しく、賢くなるには好ましいと思われたから、その実を取って食べ、また共にいた夫にも与えたので、彼も食べた」（創世記 3:6）。

はじめ、エバは自分が何をしたのか自覚していませんでした。彼女は果物を取って食べるとたちまち、引き上げられたように感じました。彼女は実を取って、いくらかをアダムにあげました。彼女の夫は妻が何をしたのかを見たとき、動揺して、彼女は死ななければならないと言いました。彼はそれが誘惑者、すなわち自分たちが警告されていた反逆者のわざであることを悟りました。そのとき、アダムは自分の妻と別れることに耐えられないと思って、彼女と運命を共にすることを決心しました。彼は実を取って、それを急いで食べました。サタンの狡猾な欺瞞は成功しました。聖なる夫婦はサタンの誘惑に屈し、不従順のうちに倒れたのです。

## 恐れるな、小さい群れよ

*Fear Not, Little Flock*



「世界の人口に比べれば、神の民は、常にそうであつたように、ごく小さな群れであろう。しかし彼らが、みことばに示されている真理に立つならば、神は彼らの逃れ場となつて下さる。彼らは全能の神の広い盾のもとに立つのである。」(患難から栄光へ下巻 296)

4 月



4月1日

## 神が承認される子供たち

「〔イエスは言われた〕、幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である。よく聞いておくがよい。だれでも幼な子のように神の国を受けいれる者でなければ、そこにはいることは決してできない。」(マルコ 10:14, 15)

猶予期間は、わたしたちが永遠に適した品性を完成することができるようにと与えられている。両親方よ、あなたがたの子供たちは、教育し、訓練するためにあなたの手中にあるのであり、神の是認される品性でも、もしくはサタンとその使たちが意のままにつけこむことのできる品性でも発達させることができるのだと考えると、これは何と厳粛なことであろう。イエスは雲と火の柱の中から語られ、ご自分の民に、自分の子供たちに神の戒めについて勤勉に教えるようにと命じられた。この指示に誰が従っているであろうか。自分の子供たちを神が是認されるような子供たちにしようと、だれが努めているだろうか。子供たちのすべてのタラントと賜物は神に属しており、このお方の奉仕へ完全に捧げられるべきであるという思いを誰が心に留めているだろうか。ハンナはサムエルを主に捧げ、神はサムエルの子供時代と青年時代にご自身を現された。私たちは自分の子供と青年たちのためにもっと働かなければならない。なぜなら神は、外国にいる人々に、また誤信と盲信という暗闇のなかにいる人々に、彼らが真理を教えるにあたって、ご自分の名によって大いなることをすることを承認されるからである。もしあなたが子供たちの利己的な要求を満たして甘やかすなら、またもしあなたが彼らの心に衣服への愛着を助長させ、虚栄心とうぬぼれを発達させるなら、あなたは彼らの贖いのために計り知れない値を払われたイエスの期待を裏切る働きをするのである。このお方は子供たちが完全な愛情を持って、ご自分に奉仕するようにと望んでおられる。(レビュー・アンド・ヘラルド 1890年6月17日)

イエスは子供たちを引き寄せ、彼らをわたしのところに来させなさいとお命じになる。それはあたかも、もしあなたがたがじゃまをしないなら、子供たちはわたしの許に来るのだと仰せになりたいかのようである。キリストに似ていないあなたの品性によって、イエスについて誤った印象を与えてはならない。あなたの冷淡さと厳しさのために、子供たちをイエスからひき離してはならない。もしあなたが天国にいるなら天国は楽しいところではないと、彼らに思わせてはならない。宗教というものは子供たちの理解できないものであるかのように語ったり、子供たちが幼い時にキリストを受け入れることは期待できないかのようにふるまったりしてはならない。キリストの宗教は陰気な宗教だとか、救い主のみもとに行くためには、人生を楽しめるものにするようなものはすべて捨てなくてはならないなどという誤った印象を子供たちに与えてはならない。

聖霊が子供たちの心に働くとき、みたまの働きに協力しなさい。救い主が彼らを召しておられるということ、彼らが元気のよい若さにあふれた年ごろに主に献身することぐらいキリストをお喜ばせることはないということを彼らに教えなさい。(各時代の希望中巻 324)



## 繁栄によって試みられる

「〔イエスは弟子たちに言われた〕、富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい。すると彼らはますます驚いて、互に言った、それでは、だれが救われることができるのだろう。イエスは彼らを見つめて言われた、人にはできないが、神にはできる。神はなんでもできるからである。」(マルコ 10:25-27)

わたしは幻の中で、多くの安息日遵守者の状態が、永遠の命を得るために何をしたら良いかということを知るためにイエスのもとにきた若者のようであることを示された。……天使は言った、「神は富んでいる者に、自分たちの富を保ったまま、神の御国にはいることを許可するだろうか。」「決して、そのようなことはなさらない」と他の天使は言った。……

わたしは、これらの富が適切に使われ、困っている人々を祝福するために、また神の働きを進展させるために分配されるようにというのが神のご計画であることを見た。……これによってどのくらい神を愛しているか、どれほど真理を愛しているかを調べるために彼らは試されるのであり、聖書に書かれている若者のように多くの者たちは、自分たちの富に加えて天にある宝を持つことができないので、悲しみながら去って行くのである。彼らは両方を持つことはできない。……

そしてわたしは、神にはすべてのことが可能であることを見た。神の霊によって心に定着した真理は、富への愛を締め出す。イエスへの愛と富への愛は同じ心の中に住むことができない。神への愛は富への愛に勝るので、所有者は自分の富とのつながりを絶ち、愛情を神に移すのである。そして、彼は神に対する愛によって神のみ事業の必要を助けるようにと導かれる。主の財産を正しく用いることは、彼の最高の喜びである。……

真理を受けはするが、それに生きることをしない者たちは、……彼らの所有物に執着し、自分たちの財産を神のみ事業の発展のために喜んで与えることをしない。彼らはあえて神を信頼する信仰を持っていない。この世への愛が彼らの信仰を飲みこんでいる。神は彼らの財産の一部分を求められたが、彼らはそれに注意を払わなかった。彼らは、自分たちが持っているものを得るために熱心に働いたのであり、彼らが欠乏するかもしれないので、それを主に貸すことができないと結論づけるのである。「ああ、信仰の薄いものたちよ。飢饉のときにエリヤを保護された神は、ご自分の献身している子らの一人をも忘れられることはない。彼らの髪の毛を数えられるお方は彼らを保護し、彼らは飢饉のときに満たされるであろう。悪人たちが彼らの周りで、食物の不足によって死にかかっている間、彼らのパンと水は確保されるのである。自分たちの地上の宝にお執着する者たち、神から貸し与えられたものを正しく処理しない者たちは、天にある宝を失い、永遠の命を失うのである。(ビュー・アソド・ヘルド 1857 年 11 月 26 日)

4月3日

## 命の与え主

「〔イエスは〕大声で『ラザロよ、出てきなさい』と呼ばわれた。すると、死人は……出てきた。」(ヨハネ 11:43, 44)

キリストのうちには、借りたものでもなければ、ほかから由来したものでもない、本来の生命がある。(各時代の希望中巻 345)

もしキリストが病室におられたら、サタンはラザロに権力をふるうことができないので、ラザロは死ななかったであろう。生命を与えるお方であるイエスのおられるところでは、死は、ラザロをめがけて矢を放つことができなかったであろう。そこでキリストは離れておられた。……キリストは、ラザロが死の支配下にはいることをお許しになった。悲しむ姉妹たちは、兄弟が墓に横たえられるのを見た。彼女たちが兄弟の死顔を見るとき、あがない主に対する彼女たちの信仰が激しく試みられることを主はご存知であった。このようにして、彼らがもっと多くの実を結ぶようにと、主は枝を剪定されていたのであった。しかし主は、姉妹たちの信仰が、いま経験している戦いを通して、ずっと大きな力となって輝き出ることをご存知だった。主は、彼女たちが耐えた苦痛のひとつひとつをご自分も経験された。主は手間どられたとはいっても、彼らを愛しておられることに変わりなかった。主は、彼女たちのために、ラザロのために、ご自身のために、また弟子たちのために、勝利が獲得されることをご存知だった。(ユス・インストラクター 1899 年 4 月 13 日)

死にかかっている者を回復することによってではなく、埋葬された者を命へと生き返らせることによって人々にご自分の神性の証拠を与えることができるようにと、ラザロが死ぬまでご自分がおられたところにとどまることが〔キリストの〕ご意向であった。

これはわたしたちにとっての励ましとなるべきである。わたしたちは時々、「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう」(マタイ 7:7) という約束が、願ったとき直ちに答えが返ってこなければ成就していないと考えたくなる。特別な祝福を求め、それらが与えられるということを信じることはわたしたちの特権である。しかし、もし懇願した祝福がただちに与えられなくても、わたしたちは祈りが聞かれなかったと考えるべきではない。しばらくの間遅れたとしても、わたしたちは答えを受けるのである。贖いの計画を実行するにあたり、キリストは人間の中にご自分を落胆させるものを十分認めておられる。しかしこのお方は落胆なされない。このお方は憐れみと愛のうちに、わたしたちに機会と特権を提供し続けておられる。そうであるからわたしたちは、主のうちに安んじ、このお方を忍耐深く待つべきである。わたしたちの祈りへの答えは、わたしたちが願っているように早く来ないかもしれないし、わたしたちが求めたとおりのものではないかもしれないが、ご自分の子供たちに何が最善であるかをご存知であるお方は、もしわたしたちが信仰をなくし落胆しないなら、求めたものよりもはるかに良いものを与えられるのである。(ユス・インストラクター 1899 年 4 月 6 日)

## 無罪のお方が有罪の者のために死ぬ

「そこで、祭司長たちとパリサイ人たちは、議会を召集して言った、『この人が多くのしるしを行っているのに、お互は何をしているのだ。もしこのままにしておけば、みんなが彼を信じるようになるだろう。そのうえ、ローマ人がやってきて、わたしたちの土地も人民も奪ってしまうであろう』。彼らのうちのひとりで、その年の大祭司であったカヤパが、彼らに言った、『あなたがたは、何もわかっていないし、ひとりの人が人民に代って死んで、全国民が減びないようにするのがわたしたちにとって得だということを、考えてもいない』。このことは彼が自分から言ったのではない。彼は……預言をして、イエスが国民のために、ただ国民のためだけではなく、また散在している神の子らを一つに集めるために、死ぬことになっていると、言ったのである。」(ヨハネ 11:47-52)

傲慢なカヤパは、贖い主としてのイエスの使命を認識するのに何と盲目であったことか。……

全国民の命に比べて、このガリラヤ人の命など何であろう。無罪であれ、有罪であれ、もし彼が国民の幸福を妨げているなら、彼を除くことは神の働きをしていることではないだろうか。全国民が減びるよりも、ひとりの人が死んだほうが良いのである。

この誤った考えは、異教の風習からきていた。異教徒たちの間では、一人の人が人類のために死ぬべきであるという曇った良心が、人身御供(ひとみごくう)を与えるように導いたのであった。そのようにカヤパは有罪である国民を彼らが罪のうちにい続けることができるように、不法からではなく、不法のうちに救おうと考えた。(ユース・インストラクター 1899 年 5 月 18 日)

救い主はご自分に対する祭司たちの陰謀をわかっておられた。このお方は彼らをご自分を彼らの中から除き去ることを望んでおり、彼らの願いはまもなく達成されることをご存知であった。しかし、クライマックスの出来事を早めることはこのお方の分ではなかった。……イエスは今や三年間の公の働きをしておられた。イエスの自己否定と私欲のない慈悲の模範は、彼らの前に置かれていた。このお方の純潔と苦しみと献身のご生涯はすべての者に知られていた。しかしこの三年の短い年月は、世がその贖い主の存在に耐えることのできる限界であった。

主のご生涯は迫害と侮辱のご生涯であった。嫉妬深い王によってベツレヘムを追われ、ナザレではご自分の民によって拒まれ、エルサレムにおいて何の理由もなくして有罪判決を下され、イエスはご自分の少ない忠実な弟子たちと共に、見知らぬ町において一時の避難所を見出された。人間の苦悩につねに心を動かされたお方、病人を癒し、目が見えない者に視力を、耳の聞こえない者には聴力を、口のきけない者には話す力を回復されたお方、飢えた者に食べさせ、悲しんでいる者を慰められたお方は、ご自分が救おうと労された人々から追われたのであった。(預言の霊 2 巻 370, 371)

4月5日

## 主の杯から飲む

「〔ヤコブとヨハネは〕〔イエスに〕言った、『栄光をお受けになるとき、ひとりをあなたの右に、ひとりを左にすわるようにしてください』。イエスは言われた、『あなたがたは自分が何を求めているのか、わかっていない。あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けることができるか』。彼らは『できます』と答えた。するとイエスは言われた、『あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けるであろう。しかし、わたしの右、左にすわらせることは、わたしのすることではなく、ただ備えられている人々だけに許されることである』。」（マルコ 10:37-40）

キリストに従うすべての者たちは自己を否定し、このお方のへりくだりを共にし、苦悩と迫害に苦しみ、このお方のみ名のためにすべての者から憎まれるのである。ヤコブはヘロデの剣によって殺された。ヨハネの命も、もし神が忠実な証人となるために彼の光を燃え続けるように保たれなかったなら、失われていたことであろう。……

ヨハネとヤコブが求めたキリストの王国においての高い地位への要請は、彼らのタラントを神の奉仕のなかで向上させることによって、自分たちをその場所にふさわしい者としたならば与えられるのであった。しかし、ヨハネとヤコブはテストされ試みられて、もし彼らが忠実であることを証明するなら、もし彼らが聖徒たちにひとたび伝えられた信仰を堅く守るなら、彼らはみ父が備えられた地位を得るのであり、またその地位は彼らの無私な忠実さに準じたものとなるのであった。……わたしたちの一人びとりは同じ基準によって処遇される。わたしたちすべての者がこの教訓を肝に銘じないだろうか。わたしたちの主が委ねられたタラントの用い方は、わたしたちの将来、永遠の報いがどのようなものとなるかについて決定的な相違をうむのである。神がご自分の栄光のために自分たちに貸されたすべてのタラントを向上させる義務を感じる者たちは、このお方の奉仕における彼らの忠実な熱意に比例して報われるのである。神が与えられた尊いタラントを誤用する者たち、神の栄光のために用いる代わりに利己的な目的のために用いる者たちは、譬えの中において主の金を土に埋めに行った人と同じように報いられるのである。神の誉れよりも、自分たちが高められることをもって考える軽率で怠惰で利己的な者たちは、初めの四つの戒めと後の六つの戒めを守っていないことを見出されるのであり、神の奉仕において純潔な献身を表した者として報われる者たちと同様に報われることはできないのである。わたしたちの生活の記録は記録の天使によって、正確につけられており、わたしたち各自の者はわたしたちの働きがどのようであったかによって報いを受けるのである。終わりの日に、大いに驚かされる者たちが多くいるであろう。（サインズ・オブ・タイムズ 1896年7月9日）

## 異なった種類の王国

「あなたがたの知っているとおり、異邦人の支配者たちはその民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている。あなたがたの間ではそうであってはならない。かえって、あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、僕とならねばならない。それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである。」(マタイ 20:25-28)

「異邦人の支配者たち」は野心的であり、地位と権威を求めたが、この点における彼らの路線は偉大さについての間違った見解と人間の心の誇りから生じたものであった。キリストの弟子たちの中においては、全く違った状態が存在すべきであった。ある者が自分の兄弟の上に権力をふるい、神の嗣業を治める支配者となることを求めるべきではなかった。……

〔キリストは〕他の者たちへの無私の配慮の手本を示された。このお方は天の主であられ、天使たちはこのお方の言葉に従った。しかしこのお方は人性の弱さと弱点を取り、人の模範を生き、人の犠牲として死ぬためにへりくだられた。このお方は、地上におられる間、ご自分のために富と誉れと愉快なつき合いを選ばれたのではなかった。かえってこのお方の生涯は質素な農民たちの間で貧しい者と苦しんでいる者たちの必要に奉仕するために費やされた。……

キリストがお与えになった教えは、ただこのお方のみ言葉を聞いた小さな集団のためだけに計画されたのではなく、時の終わりまでこのお方に従うすべての者たちの益のために記録されたのであった。このお方が開かれた真理が……現在ほど必要とされたことはなかった。……

神の民は愛のうちに固く一致し、誘惑と試練に対して互いに力づけるべきである。しかし何とたびたびサタンは思いを利己的な目的にそらすことであろう。彼はわたしたちの品性の悪い性質を知っており、それらを刺激し活動させるためにすべての機会を利用するのである。彼は論争をかきたて、クリスチャンと公言する者たちが最高位を求めるように導き、その間、誇りと自尊心を通して彼らの目を彼ら自身の品性の欠陥に対して盲目にさせるのである。弟子たちは自分たちのうちでだれが一番えらい者になるべきかということ争っていた間、イエスが自分たちの言うことを聞いておられるということを少しも考えていなかった。しかしイエスは彼らの心を読まれ、彼らの野心的願いをわかっておられた。現在も同様である。イエスは一人ひとりの品性をはかっておられる。もしわたしたちの動機が純潔でないなら、もし自己を喜ばせたいという願いが、義を望む願いや神に栄光を帰したいという願いより強いなら、わたしたちはこのお方の目からは何も隠されていないということ、またわたしたちの心の願いは、わたしたちの生涯の行動と同様に、裁きのときに考察されるのだということを確信して間違いないのである。(インズ・オブ・タイムズ 1885年1月15日)



4月7日

## 最も明るく輝く一時間の働き人たち

「ザアカイは立つて主に言った、主よ、わたしは誓って自分の財産の半分を貧民に施します。また、もしだれかから不正な取立てをしていましたら、それを四倍にして返します。イエスは彼に言われた、きょう、救がこの家に来た。この人もアブラハムの子なのだから。」(ルカ 19:8, 9)

ザアカイの改心の歴史には、何という教訓がわたしたちのためにあるのだろう。もしわたしたちが不正な商取引を通して他の者たちを傷つけたなら、もしわたしたちが取引において行き過ぎ、または誰かからだましとったなら、それが法律の範囲内であったとしても、もしわたしたちがクリスチャンであるなら、わたしたちは自分たちの間違いを告白し、わたしたちに詐欺がある限り、損害賠償をするのである。わたしたちは心の中に恵みの真の働きがあるという証拠を与えるべきである。もし地上の裁判所が、正当にはわたしたちのものではない財産を与えても、わたしたちは不正な裁判官たちの判断を受け入れるべきではない。わたしたちは人の記録上ではきれいであるかもしれないが、天の書にはわたしたちが圧迫者として記されることになり、神の裁判所において裁判がなされるとき、わたしたちに不利な申し立てがなされるであろう。

ザアカイがキリストの御顔を仰ぐまえに、彼は真に悔い改めた者として自分を明らかにする働きを始めていた。……人間が聖霊によって目覚めさせられるとき、彼がせいぜいできることは、自分の誤りを認め、だましとった者たちに元金と利息を戻すために熱心に働くことだけである。(サインズ・オブ・タイムズ 1896年1月11日)

豊かな光を持っていた者たちが、神のみ言葉が課している制限を振り捨て、このお方の律法を無効にするなら、他の者たちが彼らの場所をうめて、彼らの冠を受け取るのである。

多くの者たちがみ言葉と真理とエホバの聖なる律法を死んだ文字におとしめ、彼らの模範によってエホバの律法は難しく、厳しい重荷であることを証言するとき、また彼らが「わたしたちはこのくびきをおろし、自由になろう、わたしたちは神との契約関係にもはやとどまることをしない。わたしたちは好きなようにするのである」と言うとき、その一方ではとてもわずかな機会しかなかった者たち、ほかの道やよりよい道を知らなかったゆえに誤りの道を歩いてきた者たち、光線がもたらされる者たちがいるのである。キリストから「あなたの家に泊まることにしているから」というみ言葉がザアカイにおとずれたように、このみ言葉が彼らのもとにもたらされるのである。そして、かたくなな罪人と思われた者が、子供のようなやわらかい心を持っていることが見出される。なぜならキリストが快く彼らに注目されたからである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1897年6月15日)



## 最も価値ある働き

「ひとりの女が、高価な香油が入れてある石膏のつぼを持ってきて、イエスに近寄り、食事の席についておられたイエスの頭に香油を注ぎかけた。」(マタイ 26:7)

マリヤの心は、イエスの憐れみに対して感謝に溢れていた。彼女の心と思いを支配していた悪魔を責められるイエスのことばを、彼女は七回聞いた。彼女は自分のために天父に祈ってくださるイエスの強い叫びを聞いた。彼女は、イエスの汚れのない純潔さのうちにあつて罪がどんなに憎むべきものであるかを知り、キリストの力によって勝利したのだった。彼女は、変えられて神の性質にあずかる者となったのである。(サイズ・オブ・タイム 1879 年 10 月 9 日)

自分たちは今している以上に、神のみ事業のためにすることはできないと訴える者たちが多くいる。しかし彼らは、自分たちの能力に従って捧げないのである。主はときに、単に彼らが自発的に捧げる金額まで彼らの収入を減らすことによって、利己心で盲目にされていた目を開かれるのである。……

神のみ事業に捧げられるべき割合を決めることにおいて、義務の要求に満たないよりも、上回るようにしなさい。捧げ物がだれのためになされるべきかを考えなさい……キリストがわたしたちの愛情の対象であるとき、このお方の許しの愛を受けた者たちは、高価な香油が入れてある石膏のつぼの値段を計算するためにとどまることはしない。貪欲なユダはこれをするができるが、救いの賜物を受ける者は、捧げ物がもっと豊かな香りともっと大きな価値がないことを残念に思うだけである。(教会への証 4 巻 484, 485)

この贈り物はむだではなかった。香油が食物と衣服のために売ることができたということは事実である。そのようにすることによって、少数の貧しい者たちがしばらくの間養われたかもしれない。しかし、彼らに本当に益になったかということは、分からなかったであろう。マリヤは自分にとってはキリストの無限の愛に対するかすかな表現のように思われた贈り物を、贈ることができなかったであろう。マリヤの行為は永遠に残るものとなった。なぜならそれは自分の救い主に対する彼女の愛を表していたからであった。……

マリヤは教会を代表しており、彼女の行いは各時代における教会への教訓を持っている。キリストはわたしたちのすべての働きとすべての贈り物を、貧しい者たちに与えるようにとは命じられなかった。わたしたちは、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」という任命を果たしている者たちのためにする働きがある(マルコ 16:15)。(世界総会毎日速報 1899 年 3 月 2 日)

石膏のつぼを割ることに、また香油の香りが家全体を満たしたことに、わたしたちにはキリストの犠牲の描写が与えられている。これが無限の愛の香りで全世界を満たすのであった。(ユース・インストラクター 1900 年 7 月 19 日)

4月9日

## 貪欲は許されない

「〔キリストの〕弟子たちは……憤って言った、『なんのためにこんなむだ使をするのか。それを高く売って、貧しい人たちに施すことができたのに』。イエスはそれを聞いて彼らに言われた、『なぜ、女を困らせるのか。わたしによい事をしてくれたのだ。貧しい人たちはいつもあなたがたと一緒にいるが、わたしはいつも一緒にいるわけではない』」（マタイ 26:8－11）。

イエスはユダを、マリヤにそのような厳しい判断を下した原因として弟子たちに示すこともおできになった。このお方は彼の品性の偽善を、彼らに示すこともおできになった。このお方は貧しい人たちに対して彼の同情がまったく欠乏していること、また彼らの救済のためにあてられていた金銭を着服していたことを知らせることもおできになったのである。このお方は、やもめと孤児と雇い人たちに対する彼の圧迫に対して彼らの憤慨を起こすこともできたが、ユダの真の品性を暴露することを避けられた。このお方は彼を非難なさらなかった。そのようにすることによって、このお方は彼が将来における不誠実に対する言い訳をすることができないようにされた。

しかしこのお方は弟子たちを非難された、……イエスは将来を見られ、確信をもって話された。……国々は起り、そして倒れるであろう。君主たちと征服者たちの名前は忘れられるであろう。しかしこの婦人の行為は、聖なる歴史のページに永久に残るであろう。（*サインズ・オブ・タイムズ* 1879年10月9日）

イエスがユダをごらんになる目つきは、救い主が彼の偽善を見抜き、彼の卑劣で軽蔑すべき品性を読んでおられることを彼に確信させた。これはユダがこれまでに受けたものよりも、もっと率直な譴責であった。この譴責に彼は立腹し、これによってサタンが彼の思いを支配することのできる扉は開かれたのである。  
……

精神とやり方において多くの者たちはユダに似ている。彼らの品性において災いとなっているしみについて沈黙があるかぎり公に憎しみは見られないが、彼らが非難されるとき敵意が彼らの心を満たすのである。（*ユース・インストラクター* 1900年7月12日）

ユダは自分がイエスを売った値によってこのお方を評価した。彼の物惜しみする魂は、神の御子の命を取るに足らない金額で清算した。同じ冷たい、打算的な精神が今日キリストを公言する者たちによって表されている。このお方のみ事業への彼らの献金はししぶ捧げられるか、数々のもっともらしい言い訳のもとに全部差し控えられているのである。教会または教派によって無制限になされている幅広い慈善活動というみせかけは、しばしばこの冷たい打算的な精神の一つがあらわれたものにすぎない。そして彼らはユダのように、貧しい人たちに施すほうが良いと弁解するのである。しかし真のクリスチャンは彼の信仰を真理のみ事業に投資することによって示す。彼は行いによって知られるのである。なぜなら「行いのない信仰も死んだもの」だからである（ヤコブ 2:26）。（*サインズ・オブ・タイムズ* 1879年5月28日）

## さらに大きな許し—さらに大きな愛

「イエスが言われた。『ある金貸しに金をかりた人がふたりいたが、ひとりはいちひゃくデナリ、もうひとりはいちじゅうデナリを借りていた。ところが、返すことができなかったで、彼はふたり共ゆるしてやった。このふたりのうちで、どちらが彼を多く愛するだろうか。シモンが答えて言った、多くゆるしてもらったほうだと思います。イエスが言われた、あなたの判断は正しい。……この女は多く愛したから、その多くの罪はゆるされているのである。少しだけゆるされた者は、少しだけしか愛さない。そして女に、あなたの罪はゆるされたと言われた』」(ルカ 7:41-43, 47, 48)。

神に対する反逆のうちに生きてきた者たちは、悔い改めて主に帰るとき、最も熱烈な愛を持つのである。彼らはこのお方の子供であり、このお方の律法に忠実であると長年の間公言し、このお方への奉仕において冷たくなった者たちよりも、より良い奉仕を捧げるのである。真に改心した者たちのうちには素晴らしい変化が生じる。彼らは無作法で近寄りたがう人々にしていた古い不完全さは認められない。彼らはイエスを愛し、イエスが死なれた人々を愛する。あなたが好ましくないように思われる者たちに顔を背けるとき、実はイエスが捜し求めておられる者たちに顔を背けているのだということがどうやって分かるだろうか。おそらく、あなたが彼らに顔を背けるちょうどその時に、彼らはあなたの優しさと同情を最も必要としているのである。この批判的な精神が、また他の人々の幸福に関心を持たず、身を引くことがあまりにも多い。わたしたちはクリスチャンの愛を必要としている。わたしたちはキリストの学校において、柔和と謙遜を学ぶ必要がある。わたしたちは滅びつつある世に担うべき警告と憐れみの使命の霊によって、満たされるべきである。わたしたちは命の源から飲み始めたばかりである。わたしたちが主を知ることとせつに求めるとき、光がますますわたしたちの上に輝き、わたしたちの道はいよいよ輝きを増して真昼となるのである。

わたしたちは救い主のご品性をもっと熱心に学ぶ必要がある。わたしたちは神が与えてくださった素晴らしい型であるお方を見習うべきである。わたしたちはこの滅び行く世で満足するものが何もなくするまで、イエスの比類のない愛を深く考えるべきである。わたしたちはこのお方の親切、礼儀、優しさと愛においてこのお方のお姿を映すことを願うべきである。その時、「彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものとなることを知っている。そのまことの御姿を見るからである。彼についてこの望みをいだいている者は皆、彼がきよくあられるように、自らをきよくする」(ヨハネ第一 3:2, 3)。もうしばらくすれば、神の印が神の子供一人ひとりの額に押される。ああ、それがわたしたちの額にも押されるように。天使が神の僕の額に印を押すために出て行くとき、自分を通過するという思いに誰が耐えることができるだろうか。(ビュー・アズ・ハド 1889年5月28日)

4月11日

## 石が叫ばなければならないか それともわたしたちが叫ぶだろうか

「〔イエスが〕いよいよオリブ山の下り道あたりに近づかれると、大ぜいの弟子たちはみな喜んで、彼らが見たすべての力あるみわざについて、声高らかに神をさんびして言いはじめた、『主の御名によってきたる王に、祝福あれ。天には平和、いと高きところには栄光あれ』。ところが、群衆の中にいたあるパリサイ人たちがイエスに言った、『先生、あなたの弟子たちをおしかり下さい』。答えて言われた、『あなたがたに言うが、もしこの人たちが黙れば、石が叫ぶであろう』」(ルカ 19:37-40)。

神は、非常に冷たく感受性のない人々ではなくて、神を讃美し、神に栄光を帰することのできる人々を地上に持っておられる。神は、だれかから栄光を受けになるのであって、もしご自分の選民、すなわち神の戒めを守る者たちが黙っているなら、石でさえ叫ぶのである。

イエスは、来られる。しかし、それは初臨の時にベツレヘムの赤子として来られたような姿ではない。また、弟子たちが神を賛美して、大声で「ホサナ」と叫ぶ中を、ろばに乗ってエルサレムに入っていかれたように、来られるのでもない。このお方は天の父の栄光のうちにすべての聖なる天使たちを従えて、この地上に来られるのである。全天には、天使がいなくなる。彼がオリブ山から昇天されたときに、「ガリラヤの人たち」(使徒行伝 1:11) が天を仰いだように、このお方を待ち望む聖徒たちは天を仰ぐのである。その時、聖なる人々、すなわち、柔和な型であるお方に完全に従った人々だけが、このお方を仰ぎ見て、「見よ、これはわれわれの神である。わたしたちは彼を待ち望んだ。彼はわたしたちを救われる」(イザヤ 25:9) と、熱狂的な喜びに満たされて叫ぶのである。そして、彼らは、「終りのラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬にして変えられる」(コリント第一 15:51)。そのラッパによって、眠っている聖徒たちは呼び覚まされ、土の床から輝かしい不死をまとして出て来て、勝利した、死と墓とに勝利したと叫ぶ。それから、栄化された聖徒たちは、天使たちと共に引き上げられて、空中で主に会い、彼らの愛するお方から二度と別れることはないのである。

このような期待、このような輝かしい希望、このような贖いをキリストは、ご自分の血によって、わたしたちのために買い取られたことを考えるときに、わたしたちは、黙っていることができるだろうか。わたしたちは、イエスがエルサレムに入城されたときの弟子たちのように、大声で神を讃美しないのだろうか。わたしたちの展望は、弟子たちのより、はるかに輝かしいものではないだろうか。わたしたちはこのような、不死と栄光に満ち満ちた希望をもっているのであるから、大声で神に栄光を帰しても、わたしたちを禁じるものは誰もいないであろう。わたしたちは、来世の力を味わい、それをもっと切望しよう。(ビュ・アンド・ペルド 1852年 6月10日)

## いちじくはどこにあるのか

「そして、葉の茂ったいちじくの木を遠くからごらんになって、その木に何かありはしないかと近寄られたが、葉のほかは何も見当らなかった。いちじくの季節でなかったからである。そこで、イエスはその木にむかって、今から後いつまでも、おまえの実を食べる者がいないようにと言われた。弟子たちはこれを聞いていた。……朝はやく道をとおっていると、彼らは先のいちじくが根元から枯れているのを見た」(マルコ 11:13, 14, 20)。

実を結ばないいちじくの木は、うぬぼれた偽善者であり、繁茂した葉を誇示することによって、その木が葉のない木のように実をつけていないのに、他のいちじくの木よりも優れていることを装っていたので、しおれるようにとのろいを神から受けたのである。実を結ばないいちじくの木は、ユダヤ人のように戒めを守ると公言する者たちをよく表している。そのように、実り豊かな外見を示しているが、彼らの宗教はパリサイ人たちのようなみせかけで、神の栄光のために何の実も実らせていないのである。

働くことを許されている間、今の時を生かして用いなさい。あなたの良い行いはあなたを救うことができない。しかし、それでも良い行いなしに救われることは不可能である。

(ビュ・アソ・ハルト 1878 年 3 月 21 日)

実を結ぶクリスチャンは神とつながり、神の事柄に知的になる。神の真理と愛が彼らの瞑想課題である。彼らは命のみ言葉を大いに楽しんできたのである。

.....

光とつながっている者はみな自分たちの光を世に輝かせ、彼らの証のうちに神をたたえ、彼らの心は感謝のうちにこのお方に向かって流れ出る。キリストとの生きたつながりを持っている者たちは、このお方の愛を確信して喜ぶ。イエスをご自分の臨在によって彼らを喜ばせるとき、この世のなにもをも彼らを悲しませることはできない。……思いに神の真理を蓄えることは、神のすべての子らの特権である。そして、さらにこうするとき、神の深い事柄を探るために活力と思いの明瞭さをもっと持つのである。彼は、毎日の生活において真理の原則が実行されるにつれ、もっと真剣で熱心になる。

わたしたちすべての者は神と共に働いているべきである。怠け者はだれもこのお方の僕とは認められない。教会員たちは、教会の命と繁栄は自分たちの一連の行動によって影響されるということを、個人的に感じるべきである。……

神は、あなたが財産を捧げることが求めておられるだけでなく、自分自身を捧げることがをも求めておられる。このお方はあなたを必要とされている。このお方はあなたの個人の利子、あなたのタラントを求められる。最高で最も活発な考えが、このお方のみ事業のためと、このお方の御名に栄光が帰されるために捧げられるべきである。(同上 1880 年 1 月 1 日)



4月13日

## 信じることと受けること

「よく聞いておくがよい。だれでもこの山に、動き出して、海の中にはいれと言い、その言ったことは必ず成ると、心に疑わないうで信じるなら、そのとおりに成るであろう。そこで、あなたがたに言うが、なんでも祈り求めることは、すでにかなえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりに成るであろう。」(マルコ 11:23, 24)

わたしたちを天に結びつけ、暗黒の勢力と戦う力をわたしたちにもたらすのは信仰である。キリストを通して、神は、あらゆる罪の傾向を抑え、どれ程強かろうとあらゆる誘惑に抵抗する手段を備えておられる。しかし、自分は信仰が足りないと思って、キリストから離れたままにいる者が多い。こういう魂は、無力と無価値なままに、あわれみ深い救い主のいつくしみにすがりなさい。自分を見ないで、キリストを見なさい。この世におられたときに、病人をいやし悪鬼を追い出されたおかたは、今日も同じ偉大なあがない主であられる。信仰は神のみことばによって生まれる。だから「わたしに来る者を決して拒みはしない」とのキリストの約束をしっかりとつかみなさい(ヨハネ 6:37)。「信じます。不信仰なわたしを、お助けください」と叫んで、イエスの足下に身を投げ出しなさい(マルコ 9:24)。

「もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この山にむかって『ここからあそこに移れ』と言えば、移るであろう」とイエスは言われた(マタイ 17:20)。からし種の粒は小さなものであるが、その中には最も高い木を成長させるのと同じ神秘的な生命の原則が含まれている。からし種が地にまかれると、その小さな芽は神がその栄養としてお与えになったあらゆる要素をとらえてたちまちたくましい成長をはじめ。もしこのような信仰があれば、あなたは神のみことばと、神がお定めになったあらゆる有益な方法をとらえる。こうしてあなたの信仰は強められ、天の力があなたの助けとして与えられる。サタンがあなたの道に積みあげた邪魔物は、永遠の山のように乗り越えることができないようにみえても、信仰の要求の前には消えうせてしまう。「あなたがたにできない事は、何もないであろう」(マタイ 17:20)。

わたしたちは、神が自分の願いを聞かれるのを見たり感じたりしなくても信じなければならない。わたしたちは、神のみ約束に信頼すべきである。わたしたちが信仰をもって神のみもとに行くとき、願いごとはすべて神のみ心にとめられる。神の祝福を求めたら、それを受けることを信じ、そしてそれを受けたことを感謝すべきである。それからわたしたちは、最も必要な時にその祝福が実現することを確信して、自分の義務をつくすのである。こうすることを学んだとき、わたしたちは祈りが答えられることを知る。(サイン・オブ・タイムズ 1904 年 1 月 20 日)



## 許しの条件

「また立って祈るとき、だれかに対して、何か恨み事があるならば、ゆるしてやりなさい。そうすれば、天にいますあなたがたの父も、あなたがたのあやまちを、ゆるしてくださるであろう。〔もしゆるさないならば、天にいますあなたがたの父も、あなたがたのあやまちを、ゆるしてくださらないであろう〕」。(マルコ 11:25, 26)

教会の名簿に名前が載っており、神の息子また娘であると公言する者たちは、神また同胞と自分たちとの関係を考えているのだろうか。……わたしたちは、神がご自分の憐れみをわたしたちに示され、このお方に対する過ちを許してくださっているとき、兄弟への激しい非難の石を初めに投げることができるだろうか。神がわたしたちを裁かれるなら、わたしたちの負債は計り知れないことが分かるはずであるが、わたしたちの天父はその負債をゆるされるのである。人々が神に扱われるのは、自分自身についての意見によってではなく、また自信によってでもなく、過ちを犯している兄弟に対して彼らがあらわす精神によってである。わたしたちはわたしたちが許すので許されるのではなく、わたしたちが許すように許されるのである。(ホム・シヨリ- 1892 年 1 月 1 日)

兄弟方よ、キリストがわたしたちを愛されたように愛すべきときに、どれほどわたしたちが互いに厳しいか、どれほど容赦ないか、どれほどわたしたちが互いに苦痛を与えまた傷つけているかを考えてみなさい。まったく変わろうではないか。愛という尊い植物を育み、互いに喜んで助け合おう。わたしたちは互いの過ちに親切に、寛容で、忍耐深くなろう。わたしたちは自分自身には鋭い批判をし続けなければならないが、兄弟についてはすべてのことを望まなければならない。

あなたがたのうちのある者は罪の許し、神にあつての自由を真剣に求めているようである。あなたは自分が求めている許しを受けるのに値するだろうか。いいえ、値しないのである。それでもなお、神はそれを喜んで惜しげなく与えようとしておられる。それでもあなたは、彼らは受ける価値がないとあなたが考えている許しと愛情をあえて彼らに与えずにおくのだろうか。あなたは、神に自分をそのように扱っていただきたいのだろうか。神にあなたが扱っていただきたいと望むように、あなたの兄弟を扱いなさい。もしわたしたちが許しを求める祈りが聞かれることを期待するのなら、わたしたちは許しの精神をもってその祈りを捧げなければならない。わたしたちは自分が許されたいと望むのと同じ態度で、また同じ限度まで他の人々を許さなければならない。自称クリスチャンたちが互いに示している冷酷さは、キリストに似た者ではないばかりか、サタンの香りである。わたしたち一人びとりは自分の心をイエスの愛に広く開き、兄弟への憐れみと愛情を増し加えるべきである。……

わたしたちに対する〔キリストの〕無償の愛と憐れみを考えるとき、どうしてわたしたちは恨み、または不親切な感情一つでさえ、このお方の血によって買われたわたしたちの兄弟たちに対して抱くことができるだろうか。わたしたちに害を加えることを求めている最悪の敵に対してでさえ、すべての疑いと憎しみ、また恨みの感情を捨てよう。(聖書訓練学校 1912 年 8 月 1 日)

## 最後の働き

「それから、イエスは宮にはいられた。そして、宮の庭で売り買いしていた人々をみな追い出し、また両替人の台や、はとを売る者の腰掛をくつがえされた。そして彼らに言われた、『わたしの家は、祈の家となえらるべきである』と書いてある。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にしている。そのとき宮の庭で、盲人や足なえがみもとにきたので、彼らをおいやしになった。」(マタイ 21:12 - 14)

〔イエスの〕奉仕の最後の活動の中には二度目の宮の清めがあった。そのように世に警告する最後の働きにおいても、二つのはっきりした呼びかけが教会になされなければならない。第二天使の使命は「倒れた、大いなるバビロンは倒れた。その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒を、あらゆる国民に飲ませた者」である(黙示録 14:8)。そして第三天使の大いなる叫びのうちに、天からの声が次のように言うのが聞こえるのである、「わたしの民よ。彼女から離れ去って、その罪にあずからないようにし、その災害に巻き込まれないようにせよ。彼女の罪は積み積って天に達しており、神はその不義の行いを覚えておられる」(黙示録 18:4, 5)。(ビュー・アノド・ワルド 1892 年 12 月 6 日)

根本的な真理を明らかに認めることによって改革は進歩する。狭い哲学や冷厳な教義信奉には危険があるが、また同時に、不注意な自由主義にも大きな危険がある。すべて永続性のある改革の基礎は神の律法である。この律法に従う重要性をわれわれは明白、鮮明な言葉で示さなければならない。人々の前にその原則を掲げなければならない。それは神ご自身のように永遠のものであり、動かないものである(ミストリー・オブ・ヒーリング 100)。

終末時代に、神のすべての制度が回復される。……〔神の残りの民は〕キリストの愛に動かされて、キリストと共に力を合わせて、荒れすたれた所を復興しなければならない。彼らは、破れを繕う者、市街を繕って住むべき所となす者、とならなければならないのである(イザヤ 58:12 参照)。(国と指導者下巻 277, 278)

あわれみに満ちた最後の光、世界に伝えるべき最後のあわれみの使命は、神の愛の啓示である。神の子らは、神の栄光をあらわさなければならない。彼らは、その生活と品性において、神の恵みが彼らのためにどんなことをなしたかを表わさなければならない。義の太陽の光はよい行ない、一真のこば、清い行ないなどによって、輝き出なければならない。……

わたしたちのあたり一面から、世の人びとの悲しい叫びが聞こえる。どちらを向いても、欠乏と困窮に陥っている者がいる。人生の困難や悲惨を和らげ、救うことが、わたしたちの務めである。……もし、キリストがわたしたちの中に宿っておられるならば、心は神からの同情と、キリストのような熱烈な愛の泉がせきを切ってわき出ることであろう。(キリストの実物教訓 392, 393)

## 子供たちを備える

「イエスは彼らに言われた、……あなたがたは『幼な子、乳のみ子たちの口にさんびを備えられた』とあるのを読んだことがないのか。」(マタイ 21:16)

神は、キリストの初臨の時に子供たちによって働かれたように、再臨使命の宣布も彼らによってなされたのである。(各時代の斗争闘下巻 65)

〔スカンジナビアにおいて〕、国教会の聖職者たちはこの運動に反対し、そのために、使命の宣布者たちは投獄された。主の再臨の説教者たちがこうして沈黙させられた多くの場所で、神は、子供たちを用いて、奇跡的方法でメッセージをお送りになった。彼らは未青年であったから、国の法律は彼らを禁じることができず、彼らはなんの妨げもなく語ることを許された。(同上 64)

すべての親の仕事は、自分の子供たちを主の方法で訓練することである。このことを軽く扱い無視することは必ず神のご不興をこうむる。わたしたちは他の人々がどの方法を実行すべきであるか、あるいはどのようにすれば最もたやすく成功することができるかを判断するようには求められていない。そうではなく、主がなんと仰せられているかを判断するよう求められているのである。……

クリスチャン家族は、子供たちが神のすまいにおける高等学校に入るために卒業する訓練学校となるべきである。口やかましく叱ること、大声で命令すること、または脅かすことなどは決してあつてはならない。両親は家庭の雰囲気を親切な言葉、優しい同情と愛によって清くし、また香るようにしなければならない。しかし同時に、原則は確固として曲げてはならない。もしあなたが子供たちに対して断固とした態度を取るなら、彼らはあなたが彼らを愛していないと考えるかもしれない。あなたはこれを予期するだろうが、荒々しい厳しさを決して表してはならない。(レビュー・アンド・ワールド 1897年3月30日)

主は、幼児期からこのお方を愛し畏れるように訓戒されてきた、小さな子供たちの言葉を通してでさえ働かれる。このような器を通して主は、人々に親切で情け深くなり、心の単純さのうちにこのお方を求めるようにとお教えるのである。(レビュー・アンド・ワールド 1909年11月3日)

両親方よ、子供たちに教会であなたと共に働き人になることを教えなさい。彼らが神との同労者となることを喜びとするような方法で教育しなさい。彼らが大きくなるにしたがって、奉仕の機会が広がり、彼らの力と能力はそれに比例して増すことを彼らの思いに印象づけなさい。神に自分を捧げる者は、このお方を知らない人々への祝福の通路となるのだということを彼らに理解させなさい。どのように神と共に勝利する力を得るかを、彼らに教えなさい。もしこれがすべての親によって忠実になされるなら、わたしたちは献身した働き人をいたるところで見得であろう。(キリストを映して 188)

4月17日

## 当然お返しすべきお方に返す

「[あるものが尋ねた]、カイザルに税金を納めてよいでしょうか、いけないでしょうか。[イエスは答えられた]、税に納める貨幣を見せなさい。彼らはデナリ一つを持ってきた。そこでイエスは言われた、これは、だれの肖像、だれの記号か。彼らはカイザルのですと答えた。するとイエスは言われた、それでは、カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい。」(マタイ 22:17, 19-21)

〔キリストの〕答えは言い逃れではなく、率直な答えであり、多くの者たちの思いの中にある難問が解決された。それから後いつまでも、彼らは正しい原則を固守した。(サイン・オブ・タイムズ 1900 年 12 月 12 日)

ある者たちは、自分たちは借金から解放されていないからと言いつけて、組織的慈善の計画に取りかからず、団結してこなかった。彼らは、まず「だれにも借りがあつてはならないと」嘆願するのである。しかし、彼らが借金をしているという事実は彼らを免除しない。わたしは、カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返すべきであることを見た。ある者たちは「だれにも借りがあつてはならない」と良心的に感じ、神は彼らの借金がすべて払い終わるまで何も要求なさらないと考える。ここで彼らは自分自身を欺いている。彼らは神にこのお方のものであるものを返しそこねるのである。各自はふさわしい捧げ物を主に持って来なければならない。借金をしている者は自分の所有しているものから借金の額を引き、そして残ったものから一部分を捧げるべきである。

ある者たちは自分の子供たちに聖なる義務を負っていると感じている。彼らは一人ひとりに分け前を与えなければならないが、神のみ事業を助けるために、財産を差し出すことができないと感じる。彼らは自分の子供たちに義務があると言いつけるのである。これは正しいかもしれないが、彼らの第一の義務は神に対してである。カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい。神にあなたの什一と捧げ物を差し出さないことによって、神から盗んではならない。神にしかるべき分をお返しすることは、第一の聖なる義務である。だれにもあなたが神のものを盗むようにと主張し、あなたがそうするように導かせてはならない。あなたの子供たちが自分の益のために、神の祭壇に置いたあなたの捧げ物を盗むようなことをさせてはならない。……

古代においては、ある者たちの貪欲が、適切な割合を差し出さないようにと彼らを導いた。彼らは捧げ物を出し惜しみした。天においてこれは記録され、彼らは収獲と群れにおいて彼らがちょうど差し控えた通りにのろわれた。ある者たちは家族のなかに苦悩が押し寄せた。神は不完全な捧げ物はお受け入れにならない。捧げ物は傷がなく、群れの中で最高のもの、畑の中の最高の実でなければならない。そして、もし彼らが主の祝福が自分の家族と所有物にとどまることを望むなら、それは自発的な捧げ物でなければならない。(教会への証 1 巻 220, 221)

## 一番大切な二つの戒め

「〔律法学者が尋ねた〕先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか。イエスは言われた、『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。これがいちばん大切な、第一のいましめである。第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。これらの二つのいましめに、律法全体と預言者とが、かかっている。』（マタイ 22:36-40）

わたしたちの全存在が神の奉仕に要求されている。なにも差し控えるべきではない。しかしある者は、「でも、この指示を実行したら、この世の事柄でどうやって成功するか見当がつかない」と言う。あなたは、もっと成功するだろう。なぜなら信心は、この世の幸福と来世の幸せに必要な不可欠なものと与えているので、万事に益となることをあなたは見出すからである。あなたは、もっと成功するだろう。なぜならあなたには共に働かれる神がおられるからである。あなたは目には見えない世界の眼前で自分が働いていることをはっきりと理解しながら、見えないお方を見ているかのように生活する。（サイン・オブ・タイムズ 1893年1月9日）

もしこの世の宝と誉れを捧げることによって、キリストの奉仕に携わるようにと、あなたが一人の魂に影響を及ぼすことができるなら、それらを捧げる用意ができている、そのような愛があなたの心に宿らなければならない。

神はあなたに、一方の手である信仰でこのお方の力強い御腕をつかみ、もう一方の手である愛で滅び行く魂に手を差し伸べるようにと命じておられる。キリストは道であり、真理であり、命である。このお方に従いなさい。肉によってではなく、霊によって歩きなさい。このお方が歩かれたように歩きなさい。神の御心は、あなたがたが清くなることである。あなたがしなければならぬ働きは、ご自分の栄光のためにあなたの命を保っておられるお方の御心を行うことである。もしあなたが自分のために働くなら、それはあなたに何の益ももたらさない。他人の益のために働き、自分のことを考えることをもっと少なくし、神にすべてを捧げるためにもっと熱心になることは、このお方に喜ばれることであり、このお方の豊かな恵みによって報われるのである。

神はただあなたが自分自身に心を配り、自分自身に関心を持つようにと、あなたのなす分を割り当てられたのではない。あなたが他の人々に奉仕し、心を配ることを求めておられる。この任務の中であなたは、自分の品性のうちにある、正される必要がある悪をあらわすようになり、強められる必要がある弱点を強めるようになる。これは、わたしたちがクリスチャンの完全に到達するために、性急にいらいらして、いやいやながらではなく、快くまた喜んで果たさなければならない働きの本分である。わたしたちの中から少しでも好みに合わないものをすべて取り除くことは、キリストを模倣することではない。（教会への証 2巻 170）

わたしたちは律法が心に記されていないかぎり、律法に従うことはできない。イエスのうちにあるその真理だけが、魂を照らすことができ、わたしたちが交わる人々に良いこと、ただ良いことだけを行うことができるようにするのである。（サイン・オブ・タイムズ 1900年9月12日）



4月19日

## キリストの愛によって輝く

「そこで、この律法学者はイエスに言った、……『神はひとりであって、そのほかに神はない』と言われたのは、ほんとうです。また『心をつくし、知恵をつくし、力をつくして神を愛し、また自分を愛するように隣り人を愛する』ということは、すべての燔祭や犠牲よりも、はるかに大事なことです。イエスは、彼が適切な答をしたのを見て言われた、あなたは神の国から遠くない。」(マルコ 12:32-34)

キリストによってはっきりと定義された神の律法は、いくつかは重要性が大きく、ほかは重要性が少なく、価値が低められたり無視されたりする多くの独立した戒めではない。わたしたちの主は、初めの四つと残りの六つの戒めを神聖な全体として提示される。神への愛と隣人への愛という二つの頭の下で、神聖の一致はすべての戒めを共に結び合わせる。この二つの原則によって、人の品性が試され、従順かそれとも不従順であるかが示される。

この二つの原則は不変であり、神の御座のように永遠のものである。神を最高に愛しなさいという、初めの戒めに従う者たちは、愛と憐れみのうちに、神の恵みの富を自分たちの同胞に注ぎだす。これは愛によって働き、魂を清める信仰である。これは真理にただ同意するよりも、また儀式的な礼拝や犠牲の捧げ物よりも、はるかに大きな意味がある。真に律法に従う者たちは、神が要求される完全な奉仕を捧げる。

神の戒めを守ることには、この世においてさえ大いなる報いがある。わたしたちの良心はわたしたちをとがめない。わたしたちの心は神に敵対せず、このお方との間に平和がある。しかし自己愛、うぬぼれは決して神に受け入れられない。

もし受け入れられれば、正しいことをおこなうように導く神の恵みは、神の子供たちと信じない多数の人々との間の境界線である。一人がキリストのとりこされる間、他の者は闇の夜の君のとりこまた奴隷にされる。キリストの引き寄せに応えた者は、このお方の愛によって輝く。彼は自分を暗闇から、このお方の驚くべきみ光へと招き入れて下さったお方をほめたたえる。彼は、これほどまで豊かに与えられてきた恵みを表すために、自分の話すタラントを用いずにはおられない。彼は神の栄光を推進するために励む人々の軍隊に入隊し、そうすることによって光の通路となったのである。(同上 1898 年 9 月 22 日)



## もっと重要な事柄

「偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわざである。はっか、いのんど、クミンなどの葉味の十分の一を宮に納めておりながら、律法の中でもっと重要な、公平とあわれみと忠実とを見のがしている。それもしなければならないが、これも見のがしてはならない。」(マタイ 23:23)

あなたはある事柄においてはかなり几帳面であるかもしれないが、もっと重要な事柄すなわち神の公平とあわれみと愛を無視している。この世の習慣はわたしたちにとって基準ではないが……不幸な者に対する世の憐れみ深い同情と慈善は多くの場合、キリストの弟子であると公言している者たちに恥をかかせるのである。多くの者は、彼らを試し証明し、彼らの心にあるものを発達させる目的で、神が彼らのただなかに置かれた者たちに無関心を示す。神はお読みになる。このお方はすべての利己的な行為、悩んでいる者たち、やもめ、孤児に対するすべての無関心な行為に注目なされ、彼らの名前の反対側に「有罪、足りない、律法を破る者」と書かれる。わたしたちは自分たちの今まで行なった働きによって報われるのである。貧しい者、苦しんでいる者への義務を怠ったことは何であつても、ご自分の聖徒というキリストに対する義務を怠ることである。

すべての者の訴訟が神の調査を受けるとき、「彼らは何を公言していたか」という質問は問われないが、「彼らは何を行なったか」、「彼らはみ言葉を行う者であつただろうか」、「彼らは自分自身のために生きたか、それとも慈善の働き、また親切と愛の行いをなし、自分より他の人が好きであり、他の人々を祝福することができるようにと自分を否定していたであろうか」という質問が問われる。もしこれが彼らの生涯であつたことと、彼らの品性が親切と自己否定、慈善によって特徴づけられていたことを記録が示すなら、彼らはキリストからの祝福の確証と祝福を受ける、「よくやった。」「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい」(マタイ 25:21, 34)。キリストはあなたの著しい利己的な愛と、他の人々の苦痛と必要に対する無関心によって非常に悲しまれ傷つけられてきた。

多くの場合、他の人々に対するわたしたちの努力は、無視され、理解されないように見えるかもしれない。しかしこれはわたしたちが善を行うことに、倦み疲れることの言い訳になつてはならない。イエスは、どれ程たびたびご自分が世話をされた植物のところへ実を見つけるために来られては、葉以外になにも見出されなかったことであろう。わたしたちは自分の最高の努力の結果に落胆するかもしれないが、これがわたしたちを、他の人々の苦痛に対して無関心になり、何もしないように導かせてはならない。……

わたしたちは忍耐強い勤勉な努力をするよう励む必要がある。今必要とされているのは、やる気のない意気消沈や、気難しいつぶやきではなく、勇気である。わたしたちは主なるお方のために働きをするためこの世にいたのであつて、自分の傾向と楽しみに気を配り、自分に仕え、自分に栄光を帰すためではない(教会への証 3 巻 524-526)。

4月21日

## 盲目な案内者になるか それとも輝く光になるか

「盲目な案内者たちよ。あなたがたは、ぶよはこしているが、らくだはのみこんでいる。偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわざいである。杯と皿との外側はきよめるが、内側は貪欲と放縦とで満ちている。盲目なパリサイ人よ。まず、杯の内側をきよめるがよい。そうすれば、外側も清くなるであろう。」(マタイ 23:24-26)

[マタイ 23:15, 27, 28 引用]。これらの恐ろしい非難はユダヤ人たちに対してなされた。なぜなら、彼らは神の律法を人々に教えている一方で、御言を行う者ではなかったからである。彼らが神の律法を守っていたなら、キリストとこのお方の使命を識別したはずであった。わたしたちの時代も同様である。書かれた御言のすべてのページから光が輝いているときに、暗闇の中を歩く人々がいる。彼らは自分に都合良く解釈することができるために、聖書を研究する。彼らは聖書を自分の曲解した解釈に押し込める。彼らは正直ではない。彼らは信じるに足るあらゆる根拠があることを疑う。彼らは疑って論じる者、間違いを探すことに熟練した者となる。神のみ言葉は間違って解釈され、間違って提示され、誤用され、生活と品性に何の力も持たないものである。もしクリスチャンと公言する者が神を本当に信じるなら、彼らはこのお方の戒めを無視することはないのである。(ビュー・アード・ワルド 1899 年 8 月 29 日)

パリサイ人たちを非難するために語られたキリストの言葉は、わたしたちの時代に当てはまらないだろうか。このお方は「偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわざいである。〔神の律法を守っているからだろうか。一否〕。あなたがたは、天国を閉ざして人々をはいらせない。自分もはいらなし、はいろうとする人をはいらせもしない」と仰せになった(マタイ 23:13)。わたしたちの時代にも、ちょうどそのような教師、すなわち真理のはっきりとした記述に従わず、神のみ言葉の光から背を向けて離れ、それから全力を尽くして聖書を曲解し、また神のみ言葉を理解しようと努めている人々を盲目にするために労している者たちがいないであろうか。これらの神の律法の違反者たちは、キリストが開かれ、だれも閉じることができないとこのお方が言われる扉を、魂がむなしく手探りで探すようにと全力をあげて道をふさぐのである。今日、もし可能なら理解の扉を閉じようと努めている教師がいないであろうか。彼らは自分自身光にはいろうとしないし、他の者が入ることも許さないのである。(サインズ・オブ・タイムズ 1895 年 1 月 24 日)

キリストはご自分の信じる子らが世の光、地の塩となるようにと計画された。社会における一人の善良な人の聖なる生活、クリスチャンの模範は他の人々に反映する光を投じる。それならば、神の戒めの内をみな歩んでいる信者の一団の感化は、何と大いなるものであろう。(教会への証 4 卷 118)

## 心に留めよう

「偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわざである。あなたがたは預言者の墓を建て、義人の碑を飾り立てて、こう言っている、『もしわたしたちが先祖の時代に生きていたなら、預言者の血を流すことに加わってはいなかったらう』と。このようにして、あなたがたは預言者を殺した者の子孫であることを、自分で証明している。」(マタイ 23:29-31)

多くの人は、ユダヤ人たちの時代は暗黒、迷信、無知の時代の一つであったと考えている。悔い改めと信仰と神の啓示とは、福音の時代まで保留されており、これらはヘブルの宗教においては何の役目も持っていないという間違った考えを、彼らは受け入れていた。多くの人は、ユダヤ人の宗教はただ形式と儀式からなっていると考えるが、これ以上大きな欺瞞はあり得ない。ユダヤ国家は神との親しい関係に入れられて、このお方により聖なる民、聖なる祭司、尊い国民として尊重されたのだった。

今日クリスチャン世界は、ユダヤ人がキリストを拒み十字架にかけたので、彼らを神ののろいの下にある民と見なしている。しかし彼らを他のすべての者たち以上の罪人として見る代わりに、彼らの状況から教訓を学ぶよう努め、なぜ神の裁きがこれほどきわだったかたちで彼らの上に降りかかったのかということを問うべきである。それは、彼らが、エジプトの奴隷状態から救出された時以来与えてこられた大いなる光を拒んだからであった。それはまた、主はご自分の預言者を通して、またいにしへの聖なる人々を通してご自分の御心を明らかにされたが、彼らが自分たちの道に歩むことを選び、自分たちの意志に従うことを選んだからである。ユダヤ人が神の戒めを守ることを怠ったので、災難が襲ったのである。神は彼らに、もし彼らがこのお方の戒めを守らないなら、ご自分の約束の契約を成就することができないと言っておられた。なぜならこの契約は、従順という条件においてのみ成就されるからであった。イスラエルの歴史は、もしわたしたちが神の戒めに不従順であるならば、わたしを襲う災難についての最も厳粛な警告とならなければならない。(サィズ・オブ・タイム 1895年1月24日)

ユダヤ人たちの間に存在していたのと同じ精神、すなわち利得を信心の代用とし、内面の純潔の代わりに外観の誇示を内面の純潔の代用にするように導いていた精神が、今日クリスチャン世界をのろうのである。それは汚れているらい病のように、神を礼拝する者であると公言している者たちのただ中に広がる。聖なる事柄が世のむなし事柄と同じ水準にまで引き下げられている。悪徳は徳と、また義は犯罪と誤解されている。……イエスに毎日人の心にあるこのお方の宮を占めていただき、それを罪の汚れから清めていただく必要がある。(預言の霊 2巻 123, 124)

4月23日

## 光線に従う

「よく言っておく。これらのことの報いは、みな今の時代に及ぶであろう。」(マタイ 23:36)

神はこの終わりの時代に民を連れ出され、彼らにご自分の律法の知識を与えられた。キリストは、旧約、新約両聖書の中でイスラエルの目には見えない指導者としてご自分を示しつつ、彼らの道に光を洪水のように注がれた。キリストはご自分の民を律法の保管者とされた。彼らは神の戒めを守り、教え、人類に課されたその拘束力ある義務を示さなければならない。キリストはご自分の戒めを守る者に対して、ご自分が昼は雲の柱となり、夜は火の柱となって、主の贖われた者たちのためにしかれた道へと導き、道すがら彼らを照らすことを約束された。

.....

彼らは自分の目の前に主への畏れをつねにおくべきである。なぜなら主を畏れることは知恵のはじめだからである。人間の賞賛や世の誉れ、また快樂よりも、神のみ言葉を理解することによってこのお方の示された御心についての知識を得るほうがもっと良い。神のみ言葉はわたしたちに、このお方の戒めを守ることに大いなる報いがあることを保証している。どのような地上の心遣いも、一瞬たりとも神の戒めから離れ、十字架を取り上げることを拒む気持ちに導くようにさせてはならない。クリスチャンは富や安逸、快樂や世の誉れを、終わりの日の火によって滅びる木、わら、切り株として描写されているものとして見なすべきである。

神の戒めを守る義務を示されてきた者が、だれも自分が服従から免除されるように思われる何かの難点を見つけようと努力しないようにしよう。彼らに神のみ言葉を大いに曲解する者、天での反逆の初めから偽りを言う者を覚えさせよう。そして彼らに、彼は神のもっとも明白な言葉から彼らを目隠して引き離そうとし、明白ではっきりとしたものを不確かで疑わしいものとする用意が出来ていることを知らせよう。エホバのみ言葉を彼らに思い違いをさせ、効力のないものとするのが彼の働きである。あなたの足を永遠の真理の土台に据えなさい。あなたが見るあらゆる光の光線に従いなさい。そしてあなたが光のうちを歩むとき、あいまいなことがあなたの理解力にはっきりしてくる。……

モーセがイスラエル人を紅海の波打ち際に導いたとき、神のご命令は「前進せよ」であつた。……わたしたちはこのことからどのような教訓を学ぶべきであろうか。神がわたしたちの道に輝くことを許されている光のうちを歩みながら前進すること、そして疑問や疑いをもって立ち止まるのではなく、前進することである。(サインズ・オブ・タイムズ 1895年1月24日)

## 光を大切にし、それに従って行動する

「ああ、カペナウムよ、おまえは天にまで上げられようとでもいうのか。黄泉にまで落されるであろう。おまえの中でなされた力あるわざが、もしソドムでなされたなら、その町は今日までも残っていたであろう。しかし、あなたがたに言う。さばきの日には、ソドムの地の方がおまえよりは耐えやすいであろう」(マタイ 11:23, 24)。

キリストはご自分の働きによって恵みを受けてきた町と、このお方の情け深い働きを目撃し、このお方の情け深い言葉聞いたが、悔い改めなかった人々に災いを宣告された。大いなる信心を公言したがそれに相当する働きをもたらさなかった者たちに、このお方は最も厳しい譴責をされた。

大いなる光をもっていた人々が、神との同労者になるようにとの招きに答えないのなら、神ははるかに少ない光ともっと少ない機会しかなかった人々を選び、用いられる。……浪費する時間はない。男女が、離れた地方にある啓蒙されていない地域社会で奉仕しているべきである。……心に神のみ事業を抱えている女性は、自分たちが住んでいる地域において良い働きをすることができる。キリストは、他の人々に真理を提示するにあたって、ご自分を助けた女性について語られ、パウロもまた福音の働きにおいて自分と共に労した女性について語っている。しかし、もし彼らがそうしようとしさえすれば、大きな働きをすることができる人々によって、なされた働きはなんと限られていることだろう。……

指示は与えられてきたが、何と少数の者しかそれに従って行動しないのだろう。何と少数の者しか、キリストの譴責を担って宿営の外に行くことに十分興味を持っていないことだろう。神は真理を知っている者からの個人的な努力を求めておられる。このお方はクリスチャン家族に、暗黒と誤りの中にある地域に、また外国の伝道地に行くように、社会の新しい階級の人々と知り合いになり、主なるお方のみ事業のために賢く根気よく働くように呼びかけておられる。この呼びかけに応じるには、自己犠牲を経験しなければならない。多くの者たちがすべての障害物が取り除かれるのを待っている間、魂はこの世において望みもなく神もなく死んでいるのである。多くの男女、本当に多くの男女が世俗の利益のために、科学の知識を身につけるために伝染病の発生する地域に危険を犯して行き、彼らが商業上の利益を得ることができると考える国に行く。しかし、自分たちの模範が、自分たちのうちにキリストの代理者を認める人々に感化を及ぼすことができるように、自分の居場所を変え、自分の家庭を真理の光を必要としている地域に移す男女はどこにいるのだろうか。……宣教師の長がわたしたちの世においでになり、わたしたちに道を示すためにわたしたちの前を行かれたのである。(レビュー・アンド・パウル 1896 年 7 月 21 日)



4月25日

## 一つの小さな捧げ物の力

「イエスは、さいせん箱にむかってすわり、群衆がその箱に金を投げ入れる様子を見ておられた。多くの金持は、たくさんの金を投げ入れていた。ところが、ひとりの貧しいやもめがきて、レプタ二つを入れた。それは一コドラントに当る。そこで、イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた。よく聞きなさい。あの貧しいやもめは、さいせん箱に投げ入れている人たちの中で、だれよりもたくさん入れたのだ。みんなの者はありあまる中から投げ入れたが、あの婦人はその乏しい中から、あらゆる持ち物、その生活費全部を入れたからである。」(マルコ 12:41-44)

この貧しいやもめはレプタ二つを寄付することにおいて、愛、信仰、また慈悲が一体となっていることを明らかにした。なぜなら彼女は自分の不確かな将来についての疑問や疑いなしに、自分が持っていたものすべてを捧げたからである。キリストは彼女の小さな捧げものを、その日さいせん箱に投げ入れられたすべての中で最高の贈り物として描写された。金持ちは有り余る中から捧げた。彼らは自分のすべての必要を満たすための十分な財産が残っていたので、信仰を働かせる必要がなかった。キリストによって評価されたのは、金銭の価値ではなく、犠牲をうながした動機の献身的な純潔さであった。この小さな捧げ物は、神の祝福が共にあることによって、重要な結果を達成する器となることができた。このやもめのレプタは、他の何千もの金銭とともにさいせん箱に投げ入れられ、取るに足りないものと思われ、人間の視覚には見失われるかもしれないが、神の御目にはそうではなかった。すべての富の源、大いなる恩恵を与えるお方は、この真心からの、ほんものの捧げものを善のためのものとも価値あるものにされるのである。このやもめのレプタは、小川のようにその源は小さいが、広がり、深くなるまで各時代を通じて流れ続け、真理の拡張に貢献し、貧しい者の必要を満たしつつ、幾千もの水路を流れている。この小さな捧げ物の感化は、世界中の各時代において、また地球上のすべての国において、人類に次々と反響を及ぼしたのである。物惜しみせず自己を否定する貧しい人によって主のさいせん箱に流れたこの小さな小川は、生ける泉を造り、その流れは困窮している者を活気づけ、何千もの魂の救済の結果となったのである。(レ・ビュ・ア・ド・ヘラルド 1878 年 10 月 31 日)

神のさいせん箱に出さずに差し控え、彼らの財産を子供たちのためにため込む者たちは、自分の子供たちの霊的関心を危うくする。(教会への証 3 巻 399)

自分を満足させるために用いていたものを捨て、かつては食欲を満たすために用いていた金銭を主の倉に入れる人々は、犠牲を払っているのである。神は、やもめのレプタ二つのように、このような捧げ物に目をとめられる。(初代文集 226)



## 二度と戻ることがない

「ああ、エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、おまえにつかわされた人  
たちを石で打ち殺す者よ。ちょうど、めんどりが翼の下にそのひなを集めるように、  
わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それなのに、おまえた  
ちは応じようとしなかった。見よ、おまえたちの家は見捨てられてしまう。わたし  
は言うておく、『主の御名によってきたる者に、祝福あれ』とおまえたちが言う時ま  
では、今後ふたたび、わたしに会うことはないであろう。」(マタイ 23:37-39)

キリストの説明はとても印象的である。このお方は、めんどりが翼の下にその  
ひなを集めるように、ご自分の選ばれた民を集められるはずであった。このお方  
は彼らに保護を与え、彼らは無防備のままに残されることがないはずであった。  
めんどりはそのひなが危険の中にいるのを見るとき、その避難所である翼の下に  
ひなを呼ぶのである。めんどりは迫ってくるかもしれないどんな敵にも抵抗するの  
である。めんどりは避難所である翼の下に保護を求めて逃げてきたひなが苦しむ  
よりは、自分が死んだほうが良いのである。これが、キリストがご自分の下に避  
難所を求めて逃げこんでくる者たちにされることである。このお方はご自分のとり  
なしの翼の下に、子供たちを共に集められる。そして、そこでは彼らは安全なの  
である。

しかし、神の選ばれた国民は、神の御子を拒絶した報いを受けなければならない。  
「見よ、おまえたちの家は見捨てられてしまう」とキリストは言われた……(マ  
タイ 23:38)。

ユダヤ国民はキリストのどの忠告も望まなかった。彼らはこのお方のすべての  
譴責を軽蔑した。彼らは命を得るためにこのお方のところに来ようとしなかった。  
そうであるから、このお方は彼らに、「あなたがたの破壊はあなたがた自身の扉  
のところに置かれている。あなた自身に責任がある」と宣言された。(ビュー・アット  
・ヘルド 1898 年 2 月 22 日)

キリストの時代に人類の光と生命が、教会当局によって拒否されたように、そ  
れは後に続く各時代においても拒否されてきた。キリストがユダヤからしりぞか  
れた歴史は、幾度もくりかえされている。宗教改革者たちが神のみことばを説い  
たとき、彼らは、国教会から分離する考えはなかった。しかし宗教界の指導者  
たちが、光に対して寛容な態度を示そうとしなかったので、光を持った人たちは、  
真理にあこがれている他の階級の人たちをさがさねばならなかった。今日宗教改  
革者たちに従う者であることを自称している人々の中には、彼らの精神に生きて  
いる者が少ない。神のみ声をもとめて耳をかたむけ、真理がどんな形で示されよ  
うと、それを受け入れる用意のできている人は少ない。宗教改革者たちの足跡に  
従う者たちは、神のみことばのはっきりした教えを宣言するために、愛する教会  
から離れなければならない場合がたびたびある。また光を求めている人たちは、  
神に服従するためにこの同じ教えによってやむなく父祖たちの教会から離れなけ  
ればならないことが幾度もある。(各時代の希望上巻 285)

4月27日

## 外庭にいたギリシャ人たち

「祭で礼拝するために上ってきた人々のうちに、数人のギリシャ人がいた。彼らはガリラヤのベツサイダ出であるピリポのところにきて、君よ、イエスにお目にかかりたいのですがと言って頼んだ。」(ヨハネ 12:20, 21)

異邦人は外庭に入ることを許されていたが、境内の中に入ることはユダヤ人しか認められていなかった。サマリヤ人がこの神聖な境界線を越えたとしたら、宮は汚され、彼の命をもってそれを汚した罰を受けなければならなかっただろう。しかし、実質的にはその宮の基であり創設者であられたイエス—その礼拝と儀式は、大いなる犠牲の型にすぎず、このお方を神の御子として指し示していた—は、同情と交わりというご自分の人間のみ腕で異邦人を抱き、その一方で恵みと力というご自分の神のみ腕をもって、ユダヤ人が受けることを拒んだ救いを彼らにもたらされたのであった。(預言の霊 2 巻 150)

これらのギリシャ人たちは外から来る力にしてかつ有限な力を超えた力の必要に目覚める国民、民族、人々を代表していた。(上を仰いで 110)

イエスが求めておられるのは貧しい者たちである。兄弟姉妹方、あなたは自分が貧しい者であることを感じているだろうか。あなたはエルサレムにきたギリシャ人たちのように、「イエスにお目にかかりたいのですが」と言っているだろうか(ヨハネ 12:21)。パリサイ人たちがこのお方を告発し、有罪とし、殺すことができる何かを探そうとすべての可能な方法によって試みながら、このお方の跡をつけていた時に、ギリシャ人たちはイエスを探しに來たのである。この試練と悲しみのときにあって、ギリシャ人たちの真剣な願いと確信はイエスにとってなんとありがたいものであっただろうか。ギリシャ人たちはこのお方の大いなる業を聞き、このお方の知恵と真理を聞いたので、このお方に会うことを望んだ。そして彼らは、預言を研究しこのお方が自分たちの心の望みであると確信したので、このお方を信じた。

この時代のための真理を信じていると公言している人々にとって大いに危険なことは、自分たちが主のためにあれこれと犠牲を払い、またあれこれと主のために良い働きをしたゆえに、神の祝福に対する権利があるかのように感じることである。あなたは、神に従うことを決心したので、このお方があなたに対して義務を負い、またそのようにすることによってこのお方の祝福を得るのが当然だと想像しているのだろうか。あなたが払った犠牲は、あなたを神の豊かな賜物に対する権利を与えるのに十分な功績があるかのように見えるであろうか。もしあなたが、キリストがあなたのためになされた働きを正しく認識しているなら、あなたは自分自身に、または自分自身の行いには何の功績もないことを悟る。あなたは自分の失われた状態を見るであろう。なすべきことは一つしかない。それはイエスをつねに眺めること、御父がつかわされたお方を信じることである。(パイブルコー 1892 年 5 月 15 日)

## 生命の神秘

「すると、イエスは答えて言われた、『人の子が栄光を受ける時がきた。よくよくあなたがたに言うておく。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる。自分の命を愛する者はそれを失い、この世で自分の命を憎む者は、それを保って永遠の命に至るであろう』」（ヨハネ 12:23-25）。

年ごとに人は一見、最高級品を投げ捨てているかのように見える行為によって、穀物を保存する。なぜなら、しばらくの間これは主によって見守られるために、うねの下に隠されなければならないからである。そして、葉が出、それから穂が、そして穂の中に実が現れるのである。しかしこの発達は穀物が見えないところに埋められ、隠され、全体に見たところ失われぬ限り、生じないのである。

地に埋められた種は実を生み出し、つぎにこの実の種がまかれる。このようにして収穫が増加するのである。そのように、カルバリーの十字架の上でのキリストの死は永遠の命へと実を結ぶのである。この犠牲を熟考することは、その実として、永遠にわたって生きることになる人々の栄光となるのである。

この教訓によってキリストは、この教訓と、すべての者が実行すべきものである自己犠牲を結び付けられた。……「もしわたしに仕えようとする人があれば、その人はわたしに従って来るがよい。そうすれば、わたしのおる所に、わたしに仕える者もまた、おるであろう。もしわたしに仕えようとする人があれば、その人を父は重んじて下さるであろう」（ヨハネ 12:26）。

これがわたしたちの求めるべき唯一の誉れである。そしてわたしたちは決心と、もくろんでいる宝一神の御国における永遠の命一の価値に比例した真剣さをもってそれを求めるべきである。キリストは人の御自分に対する完全な献身を要求しておられる。これは人が高められる条件である。彼が自分の思いと、体と、魂を神にゆだねるなら、そのようにして彼は誉を受けるであろう。自己放棄は自己保存の大いなる法則であり、自己保存は自滅の法則である。

自分のために生き、自分に仕えるために命を捧げる者は、自分の命を失うのである。彼は多く集めるかもしれないが、少ししか分け与えないのである。そのようなものはすべて、食べてしまった穀物のようである。自分のためだけに考え計画する者たち、自分たちの考えに仕え、自分たちの利益を進展させることをすべて望む者たちは、利己的偶像の方針を追求するのである。彼らについて神は言われる、「エフライムは偶像に結びつらなつた。そのなすにまかせよ」（ホセア 4:17）。自分たちのために企て、世俗的計画に従って働くほどこの一時的な生命を愛する者たちは、ついに自分たちが破産したことを見出すようになる。なぜなら彼らは永遠の富を持っていないからである。しかしこの生命を憎み、キリストがいなければ命の代わりに死を選ぶものは、天を獲得するのである。（サインズ・オブ・タイムズ 1897年7月1日）

4月29日

## 十字架の引きよせる力

「そして、わたしがこの地から上げられる時には、すべての人をわたしのところに引きよせるであろう」(ヨハネ 12:32)。

聖書は人がキリストに来る前に、悔い改めなければならないとは教えていない。わたしたちの救い主はカルバリーの十字架の上で上げられた。そして十字架から輝いているキリストの愛は、墮落した人に対するイエスの苦難について絶えず罪人に語っている。墮落した人類に対するこのお方の愛は、絶えず罪人をこのお方に引き寄せている。違反者はこの愛に抵抗するかもしれない。また、キリストに引き寄せられることを拒むかもしれない。しかし、もし彼が抵抗しないならば、イエスに引き寄せられ、救いの計画の知識は彼を神の愛する御子の苦しみを招いた自分の罪に対する悔い改めのうちに、十字架の足元に導くのである。(サイン・オブ・タイムズ 1890 年 8 月 11 日)

罪人が自分の救い主に引き寄せられるのは、カルバリーの十字架に掛かっておられるキリストを眺めることによってである。そして彼が、キリストが自分のために死なれたことを悟るとき、彼の心は悔恨と優しさのうちに溶かされるのである。彼は神聖な律法を犯したので神に悔い改め、自分の身代わりと保証人としてわたしたちの主イエス・キリストに対する信仰を持つのである。(ビュー・アノド・ヘルド 1892 年 7 月 5 日)

罪の自覚が改心における初めの一步であり、律法によって、罪の自覚が生じるのである。罪人が自分の罪の認識を持つとき、彼は、カルバリーの十字架上で彼のために示された驚くべき愛によって、キリストに引き寄せられる状態にあるのである。彼が謙遜で悔い改めているなら、彼は自分が破った律法に許しを求めることはせず、最愛の御子を通して許しと聖化を提供された神に目を向ける。彼が世の罪を取り除く神の小羊を見るとき、彼はこのお方を愛するようになり、眺めることによってこのお方のみかたちに変えられる。(サイン・オブ・タイムズ 1890 年 7 月 7 日)

罪人がキリストの愛によって引き寄せられて十字架に近づき、その前でひれ伏すとき、新しい創造がある。新しい心が彼に与えられる。彼はキリスト・イエスにあつて新しく造られた者となる。聖潔はこれ以上要求することが何もないことを見出す。(サイン・オブ・タイムズ 1902 年 6 月 4 日)

イエスはすべての人を引き寄せておられる。この引き寄せにだれが応じるだろうか。多くの人々が、人の心を引き寄せているこの神の愛に応じたと公言する者たちの生活と模範によって、大いに感化されるのである。多くの人々が、キリストの名を公言するあなたを、それがあなたをより良い男女にしているかどうかを見ようと見張るのである。彼らはあなたが家族の中においてキリストのように、優しく礼儀正しいか見ようと見張るのである。主は、「あなたがたはその実によって彼らを見わけるのである」と言われた(マタイ 7:20)。(パイブルコー 1892 年 2 月 1 日)

## 特別な任務

「そこでイエスは彼らに言われた、もうしばらくの間、光はあなたがたと一緒にここにある。光がある間に歩いて、やみに追いつかれないようにしなさい。やみの中を歩く者は、自分がどこへ行くのかわかっていない。光のある間に、光の子となるために、光を信じなさい。」(ヨハネ 12:35, 36)

神のための活動的な働きに費やされた一生は、尊い一生である。つまらないことやむだな後悔や、益のない不平のうちに時をむなしく過ごしている多くの人々が、もし神から与えられた光を認識し、これを他の人々に輝かすなら、全く異なった経験をすることができであろう。多くの人々は安逸を愛する心と利己主義のためにみじめな人生を送っている。勤勉な活動によって、彼らの生活は死の暗い道にある人々を天への道に導く日光の輝く光線のようになることができるのである。人々がこの道を歩むとき、彼らの心は、イエス・キリストのうちにある平安とよろこびに満たされる。神のみ働きに真剣さと熱心さを示すことは、この世におけるわたしたちの利点のため、また永遠の利益のためなのである。

多くの者が、「もしイエスが五年間のうちに来られることを知っているなら、わたしはキリストに魂を勝ち取ることを自分の第一の仕事とするであろう。なぜならこのことが、すべての重要な考慮すべき事柄となるからである。」と言う。そしてこの同じ人たちが、二年生きないかもしれないし、一年も生きないかもしれないのである。わたしたちはまず第一に、神とこのお方の聖潔を求めるべきである。このお方の賢明なみ摂理によって、わたしたちは将来を見通することができない。それはしばしばわたしたちを不安にし、不幸にするのである。しかし、神の慈愛についてわたしたちが持っている最も大いなる証拠の一つは、神が明日の出来事を隠されるということである。わたしたちが明日を知らないということが、今日わたしたちをもっと注意深く真剣にするのである。わたしたちは自分たちの前途を見ることができない。わたしたちが最も周到に立てられた計画は時々、知恵がなく欠陥があるように思われる。わたしたちは「将来を知ることさえできればよいのに」と考えるが、神はご自分の子供たちがご自分に信頼し、そしてこのお方が彼らを導くところへ行く用意ができていることを望まれる。わたしたちは自分たちの主が天の雲に乗って現れる正確な時は知らないが、このお方はわたしたちに唯一の安全はつねに用意していること、すなわち見張り待ち体制にあると言われた。わたしたちの前に一年あるいは五年、あるいは一〇年があらうと、わたしたちは今日わたしたちの信任に忠実であるべきである。わたしたちは、その日がわたしたちの最後になるかのように日毎の勤めに忠実になるべきである。

わたしたちは、怠惰にして待っているとすれば、神の御心を行なっているのではない。このお方はすべての人に働きを与えられ、忠実に自分の役割を果たすことを求められる。わたしたちはイエスのためにすべての水のほとりに種をまき、働き続けなければならない。(ビュー・アッド・ヘラド 1881年10月25日)



## 研究 16

## 清めの特別な働き



## 「真の礼拝」

清めの特別なメッセージは、黙示録 14 章の中でさらに明瞭に示されており、その結果は、創造主への礼拝であることをみてきました。「霊とまことをもって……礼拝する」「まことの礼拝をする者たち」を、「父は、……求めておられ」ます。それでは、真の礼拝とは何でしょうか？

## 真の礼拝と偽りの礼拝のあいだの闘い

この礼拝をめぐって天で戦いを始めたのが、サタンでした。そして、天から追放されたサタンはこの戦いを地上でも続けています。

『「悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華を見せて、言った、『もしあなたが、ひれ伏してわたしを拝むなら、これらのものを皆あなたにあげましょう』。するとイエスは彼に言われた、『サタンよ、退け。主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ』と書いてある』（マタイ 4:3-11)。

「サタンは主に答えて言った、『ヨブはいたずらに神を恐れましょうか。あなたは彼とその家およびすべての所有物のまわりにくまなく、まがきを設けられたではありませんか。あなたは彼の勤労を祝福されたので、その家畜は地にふえたのです。しかし今あなたの手を伸べて、彼のすべての所有物を撃ってごらん下さい。彼は必ずあなたの顔に向かって、あなたをのろうでしょう』。主はサタンに言われた、『見よ、彼のすべての所有物をあなたの手にまかせる。ただ彼の身に手をつけてはならない』。サタンは主の前から出て行った」（ヨブ記 1:9-12)。

真の礼拝に対する偽りの礼拝とは何でしょうか。

## 偽りの礼拝 – 私利私欲から出る



「ふたりの人が祈るために宮に上った。そのひとりパリサイ人であり、もうひとは取税人であった。パリサイ人は立って、ひとりてこう祈った、『神よ、わたしは……感謝します』(ルカ 18:11)。

「パリサイ人は礼拝をするために宮に上るが、それは自分がゆるしを受けなければならない罪人であることを認めたからではなく、自分をただしめと思い、神の賞賛を受けようと思うからである。彼は、自分の礼拝を、何か神の前に自分をよく思われるようにする行為でもあるかのように考える。また、他の人びとも、自分を信心深い人間のように思わせていた。彼は神からも人からも、よく思われようとする。彼の礼拝は、私利私欲から出たものであった」(キリストの実物教訓 130)。

礼拝の場所や行いが、礼拝の性質を決めるものではないことがわかります。神の宮にのぼりながら、偽りの礼拝を捧げることも可能なのです。

真の礼拝は自分の利益を求める取引ではありません。

「〔愛は……〕自分の利益を求めない」(コリント第一 13:5)。

「〔パリサイ人は……〕ただ上べだけの宗教に満足している。彼の義は、自分の義、つまり、彼自身の行ないの結果であり、人間の標準によって評価されたものである」(キリストの実物教訓 131)。

### みな物を買うことも売ることもできないように

この世界の最後の戦いも真の礼拝をめぐる行われまゝです。イエスの敵は、偽りの礼拝の根拠をもって、それを人々に強制しようとします。

「また、小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に、その右の手あるいは額に刻印を押させ、この刻印のない者はみな、物を買うことも売ることもできないようにした。この刻印は、その獣の名、または、その名の数字のことである」(黙示録 13:16-17)。

「すべての国民は、彼女の姦淫に対する激しい怒りのぶどう酒を飲み、地の王たちは彼女と姦淫を行い、地上の商人たちは、彼女の極度のぜいたくによって富を得たからである」(黙示録 18:3)。

「また、地の商人たちも彼女のために泣き悲しむ。もはや、彼らの商品を買う者が、ひとりもないからである」(黙示録 18:11)。

「これらの品々を売って、彼女から富を得た商人は、彼女の苦しみと恐れをいだいて遠くに立ち、泣き悲しんで言う」(黙示録 18:15)。

「また、おまえの中では、あかりもともされず、花婿、花嫁の声も聞かれない。

というのは、おまえの商人たちは地上で勢力を張る者となり、すべての国民はおまえのまじないでだまされ……(た)」(黙示録 18:23)。

### 世々限りなく生きておられるかたを拝み(礼拝し)

しかし、この最後の黙示録(イエスの啓示録)の中で、ヨハネは天で行われている真の礼拝を見ました。

「二十四人の長老は、御座にいますかたのみまえにひれ伏し、世々限りなく生きておられるかたを拝み、彼らの冠を御座のまえに、投げ出して言った、『われらの主なる神よ、あなたこそは、栄光とほまれと力とを受けるにふさわしいかた。あなたは万物を造られました。御旨によって、万物は存在し、また造られたのであります。』」(黙示録 4:10-11)。

「さらに見てみると、御座と生き物と長老たちとのまわりに、多くの御使たちの声がかかるのを聞いた。その数は万の幾万倍、千の幾千倍もあって、大声で叫んでいた、『ほふられた小羊こそは、力と、富と、知恵と、勢いと、ほまれと、栄光と、さんびとを受けるにふさわしい』。またわたしは、天と地、地の下と海の中にあるすべての造られたもの、そして、それらの中にあるすべてのものの言う声を聞いた、「御座にいますかたと小羊とに、さんびと、ほまれと、栄光と、権力とが、世々限りなくあるように」。四つの生き物はアアメンと唱え、長老たちはひれ伏して礼拝した」(黙示録 5:11-14)。

「天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め」(黙示録 14:7)。

「彼らは、神の僕モーセの歌と小羊の歌とを歌って言った、『全能者にして主なる神よ。あなたのみわざは、大いなる、また驚くべきものであります。万民の王よ、あなたの道は正しく、かつ真実であります。主よ、あなたをおそれず、御名をほめたたえない者が、ありましようか。あなただけが聖なるかたであり、あらゆる国民はきて、あなたを伏し拝むでしょう。……』」(黙示録 15:3-4)。

「そこで、わたしは彼の足もとにひれ伏して、彼を拝そうとした。すると、彼は言った、『そのようなことをしてはいけない。……ただ神だけを拝しなさい……。』」(黙示録 19:10)。

「神……を拝しなさい」(黙示録 22:9)。

「天で調査審判が行なわれ、悔い改めた罪人の罪が聖所から除かれているその間に、地上の神の民の間では、清めの特別な働き、すなわち罪の除去が行なわれなければならない。この働きは、黙示録一四章のメッセージの中にさらに明瞭に示されている」(各時代の斗争闘下巻 141)。

そうです。特別な清めにより、この礼拝に加わる準備をした人々が、天へ移さ

れるのです。

### 父は、このような礼拝をする者たちを求めておられる (ヨハネ 4:23)

「イエスは、聞き手の思いを、形式や儀式の問題、そしてまた論争の問題から高めようと望んで、こう言われた、『しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊とまことをもって父を礼拝する時が来る。そうだ、今きている。父は、このような礼拝をする者たちを求めておられるからである。神は霊であるから、礼拝をする者も、霊とまことをもって礼拝すべきである』(ヨハネ 4:23, 24)。

イエスがニコデモに、『だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない』と言われたときに示されたのと同じ真理がここに宣言されている(ヨハネ 3:3)。人は、聖なる山や聖なる宮を求めることによって天とのまじわりにはいれるのではない。宗教は外面的な形式や儀式に限定されるのではない。神から出ている宗教だけが神へいたる宗教である。神に正しく仕えるためには、神のみたまによって生れなければならない。みたまは心をきよめ、思いを新たにし、神を知り愛する新しい能力をわれわれに与える。それは神のすべてのご要求によることで、従う心をわれわれに与える。これが真の礼拝である」(各時代の希望上巻 224, 225)。

「神は、手で造った神殿にお住みにはならないが、神の臨在によって神の民の集会を尊ばれる。神は、彼らが神を求め、罪を認め、互いのために祈るために集まるときに、聖霊によって彼らに会うと約束されたのである。しかし、神を礼拝するために集まる者は、すべての悪事を捨て去らなければならない。彼らが、霊とまことをもって、聖なる装いをして神を拝むのでなければ、彼らが集まるのは無益である。このような人々について主は、次のように言われる。『この民は、口さきではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている』(マタイ 15:8)。神を礼拝する者は、『霊とまことをもって礼拝』しなければならない。『父は、このような礼拝をする者たちを求めておられるからである』(ヨハネ 4:23)」(国と指導者上巻 25, 26)。

### 真の清めの結果は、真の礼拝です。

永遠にわたって、神とキリストについて知れば知るほど、ますます天蓋に反響する賛美の声は豊かに大きくなっていくのです。

「永遠の年月が経過するにつれて、神とキリストについてますます豊かですますます輝かしい啓示がもたらされる。

知識が進歩していくように、愛と尊敬と幸福も増していく。人々は神について学べば学ぶほど、ますます神のご品性に感嘆するようになる。イエスが彼らの前

に、贖いの富と、サタンとの大争闘における驚くべき功績とをお示しになると、贖われた者たちの心はいっそう熱烈な献身の念に燃え立ち、いよいよ喜びに満たされて黄金の立琴をかき鳴らし、万の幾万倍、千の幾千倍の声が一つになり、賛美の一大コーラスとなって盛りあがる。『また、わたしは、天と地、地の下と海の中にあるすべての造られたもの、そして、それらの中にあるすべてのものの言う声を聞いた、「御座にいますかと小羊とに、さんびと、ほまれと、栄光と、権力とが、世々限りなくあるように」。』(黙示録 5:13)。

大争闘は終わった。もはや罪はなく罪人もいない。全宇宙はきよくなった。調和と喜びのただ一つの脈拍が、広大な大宇宙に脈打つ。いっさいを創造されたおから、いのちと光と喜びとが、無限に広がっている空間に流れ出る。最も微細な原子から最大の世界に至るまで、万物は、生物も無生物も、かげりのない美しさと完全な喜びをもって、神は愛であると告げる」(各時代の争闘下巻 467)。

完

しかかっていました。彼は、イエスさまが本当にメシヤなのかどうかという疑いに悩まされてさえました。そこで彼は自分の弟子のある者を送って救い主に質問させたのです。

「『きたるべきかた』はあなたなのですか。それともほかにだれかを待つべきでしょうか」。

使者たちがイエスさまのところへ来たとき、このお方の近くには、このお方が癒しておられた多くの病人がいました。一日中使者たちは、イエスさまが苦しむ人々を助けるために疲れを知らず活動的に働かれるあいだ待ちました。最後にこのお方は言われました。

「行って、あなたがたが見聞きしていることをヨハネに報告しなさい。盲人は見え、足なえは歩き、らい病人はきよまり、耳しいは聞え、死人は生きかえり、貧しい人々は福音を聞かされている」(マタイ 11:3-5)。

そのように三年半イエスさまは「よい働きをしながら、…巡回されました」。それから、このお方の地上における公生涯の終わる時が来ました。ご自分の弟子たちと共に、このお方は裏切られ、有罪とされ、十字架につけられるためにエルサレムに行かなければなりませんでした。

こうして、このお方ご自身の言葉が成就しなければなりませんでした。「よい羊飼いは、羊のために命を捨てる」(ヨハネ 10:11)。

「まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。……彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために碎かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた」(イザヤ 53:4-6)。

## じゃがいも団子

### ■材料

|          |       |
|----------|-------|
| じゃがいも（中） | 5 個   |
| 片栗粉      | 1 カップ |
| 塩        | 少々    |
| しょうゆ     | お好み   |
| 粗糖       | お好み   |

### ■作り方

1. じゃがいもの皮をむき、浸るくらいの水に塩を少々入れて煮ます。
2. 煮えたらゆで汁を捨てて、片栗粉を混ぜてよくこねます。
3. 粉っぽさがなくなったら、棒状にまとめます。
4. 輪切りにして、オリーブオイルで焼きます。
5. しょう油と粗糖を加えてからめます。

片栗粉に混ぜた後は、ラップにくるんで冷凍保存も可能です。



## 教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



## 聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係  
是非お申し込み下さい。

## 書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

## 第25話 良い羊飼い(Ⅲ)

イエスさまがお命じになると、ペテロは水の上を歩くことができました。しかし、彼は救い主に自分の目を留めていなければなりません。彼が目をそらすとすぐに疑い、沈みはじめました。

すると彼は「主よ、お助けください」と叫びました。すると救い主のみ手は彼をひき上げるために伸ばされました(マタイ 14:28 - 31)。そのようにだれかがこのお方に助けを求めて叫ぶと、キリストのみ手は救うために差し出されるのです。

救い主は死者を命へとよみがえらせました。その一例がナインのやもめの息子です。人々は彼を墓へ運んでいるときに、イエスさまとお会いしました。このお方は若者の手を取り、彼を立たせ、そして彼を生かして母親に渡されました。そこで一行は、喜びの叫びと神への賛美の声をあげながら、自分たちの家に戻りました。

ヤイロの娘がよみがえらされたときも同様ですし、また、キリストの言葉によって、4日間死んでいたラザロは墓から呼び出されたのでした。

同様にキリストが再び地上に来られるとき、このお方の御声は墓をつらぬき、そして「キリストにあって死んだ人々が」栄光に満ちた不死の命へと「よみがえり」ます。それから彼らばいつも主と共にいるであろう(テサロニケ第一 4:16, 17)。

わたしたちの主が地上におけるご自分の公生涯の間になされたのは、すばらしいみわざでした。この働きについて、このお方はバプテスマのヨハネに送られた答えの中で語られました。ヨハネは牢獄にいて、失望

